莊子品説

太

中央下

二

内閣文庫
和書 類
八六九〇 號
八 冊
七四 函
六 架

内閣文庫
番號	和	8690
冊數		8（2）
函號	174	86

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

荘土画説　中央下

国立公文書館
National Archives of Japan

城東

俗ニ下タ町ト云山の手ニ對して云なり

日本橋　江都の中央にして諸國行程此橋を以て定む
金城の東方にして御壕の餘水龍ノ口ヨリ落東流し大川より潮のさし
引あり　公の御船を通せる川筋ゟ橋ハ南北ニ架ス橋の長二十八間
欄檻葱宝珠あり大手ヨリ十一町卯辰の方ニ在西ニ一石橋東ニ江戸橋
同ト流ニかゝれり始てかゝりし年暦を不知
此橋より南ハ京橋芝筋品川驛迄二里東海道口之北ハ神田本郷筋道板
橋驛迄三里中仙道口之其間芝ノ筋違橋の道路俗ニ通り町といふ町
幅十間東都要道之
浮草元政身延行記ニ
日本橋邊日本秋　更無一事掛心頭　今宵新照江城月　影指扶桑六十州

△日本橋北大通り

○室町　一町目より三町目まであり

○尼店　同室町一丁目西側を云尼ヶ崎又右衛門拝領地なる故さう云
此側家並塗物く此軒下まて馬具荒物等を商ふ前店穴藏等家前門々
に行側並ひありしハ近き頃迄に追々相止みぬ
諸穢集りて云此辺むかし御入国の頃ハ穢多村にて弾左ェ門住居を後
に新鳥越今の浅草新町へ移されし其遺風にて室町二丁目辻にて穢多
出て燈心をもさくくと云今以て此辻にて商ひ売て

○浮世小路　室町三丁目東よこ町むつゝの所と云へり
此処畳表浮世由座臥座のミせあり夫故かく云ともまたむかし家に風
呂屋掟女類ひありしもへかく呼来れりといへり

○十間店　本町石町の間大通り石町に属せし

平岩氏仙桂江東吟藁日本橋
十二街津市諸闤。商舶輻輳泛千艘。東來西去諸州客。即是成都
萬里橋

此地三月前雛人形五月前兜菖蒲太刀極月もはら羽子板ホの市立賑
ふあり
此いりき石町本二白銀町今川橋らくの堀を境ひて北の方ハ神田の地
なり

△江城東大手正面筋常盤橋御門通り
○本町　四町在之浅草通り奥州街道出口千住驛ぇ通せ
御城官道道幅七間
町年寄三ヶ所草創拝領屋鋪在之
本町一町目奈良屋役所　同二町目樽役所　同三町目喜多村役所
○同一町目二町目いきし呉服商人多し呉服店元始ハ家城太郎次郎と云者此地にて始むるよし支蹟合考ニ見へたり
△三崎稲荷　同一丁目倍ニ拮抜長屋ト云　別当　宝積院　真浄院
○本草屋町　本町一二町目南よこ町古へ東側中程ニ新道有元禄二迄の図ニ見へたり
△三吉稲荷　本かくや町樽役所の鎮守
○本町三町目　薬師店多し

△同裏河岸通り

○同四町目　紙問屋通り

落穂集ニ云此辺國初以前迄梟首場之故ニ山王明神両社祭礼ともに氏町を渡しをせしといへり然れとも明神祭礼ハ此町を渡之

△大横町　同四町目より三町を俗ニ太かいといへり

△塩河岸　同南裏河岸塩問屋通る多く俗ニ呼へり

古キ繪図ハ塩屋町としるし此所実ハ伊勢町の分也

本町三町目より北影道通り通油町迄引之けり

○白石先生紳書ニ云常盤橋を大橋と云是ハ昔ゟ有し也平川ゟ落入る流ニ掛りし橋なりけん其後ニ京橋より本町筋迄の町出来ニ至りて川筋を掘切りきて日本橋江戸橋も出来たるなるへしおもふにハ慶長五年関ケ原事終りて後の事なるへししるし

按るに京橋辺より此方ハいまた家もなく上方ゟの往来ハ京橋向ゟ赤坂へ出西の丸下へかゝり大手の前より今の本町通りに通セしよし右の書にもミへたり去し其頃ハ本町の地何といひし地にて有しや

△萬病藥王丸　藥店本町二町目に有之明暦ゟ元文中迄山城國大山崎八幡宮社司柴垣家傳来の良藥なり功能第一気付積つかへ諸毒けし　萬水製

△古今武家盛衰記ニ曰小出伊勢守吉親初勘兵衛浪人ニて本町三丁目ニ潜居ス地主池永有右衛門小出勘兵衛へ黄金一枚を送り大坂御陣御供ニ被召出五百石賜り夫ゟ戦功によりて一万石ト成夫ゟ有右衛門へ知行五百石に毎年金五百両つゝ贈られ家老の上座に客人分と称せらる此池永氏子孫今ニ本町三丁目に家持として相続せり

△五霊香の傳 本町四丁目 益田りんきよ目薬見世

神祖当地御入部の砌益田友嘉相州小田原ゟ爰に来り本町四丁目南方に地面給り関八州商人の連雀を出しより江戸まで後に名主と成連雀運上の支に町年寄へあつり江戸の家ハ二男にあつるなれ隠居し後の一跡を助傳に河つく女子に聟を取家傳薬方を傳へしとゝ今に店存も

益田友嘉
- 某 太郎右衛門相州小田原益田之
- 道是 本町四丁目名主某
- 助傳 — 助慶 — 玄春
- 女子

○きらん橋 本町三丁目より瀬戸物町へ架を伊勢町堀にかゝる本名益田橋と云此地名主益田氏草創とぞ

○道常橋 本町四丁目ゟ伊勢町へ架を同上 池永右衛門元来小田原に在北条家と公て後江戸へ来て住せるとぞ然るに江戸の地町になりさる以前より当地に住せし旧家なり

○堀留町 二町河り大傳馬町南よし通り古き江戸繪図にハ捨聞町と河り

○[illegible]石先生紳吾に云江戸の町ハ上方ゟしてハ京橋の邊ゟ河るよまて赤坂へかゝりて城下へ入しか御入国後に糀町聞しかれしか家へし其頃ハ京橋筋より今の西丸下と往来の道よし大手前より本町へ通生しあなへし 下略

其後に京橋ゟ本町筋迄の町出来るに至り川筋放堀之しきて日本橋

江戸橋と云し出来しなるへしこれらは慶長五年関ヶ原事終し後の
事なるへし（下略）

大傳馬町　二町有り　本町四丁目つゝき浅草御門通り此所まて
御傳馬役を勤む　此地木綿問屋多し
同二町目角に神田社内天王旅所として假屋立（六月五日より六月八日まて）
或云大傳馬小傳馬南傳馬町此三ヶ処は古へ御郭内に在慶長中
御城御造営の頃御用地に成三ヶ所ともに今の地へ移る寛永二酉年三
傳馬町へ助成地四ヶ所拜借有り則神田旅籠町一ヶ処浅草さくこ町一
ヶ処但し其後此地御用地に成浅草の内諏訪町裏通りに代地出新旅
籠町なり元柳原町一ヶ処代地雑慶橋辺元柳原六町目と云本町四丁目
一ヶ処
梅ちるに当御地辺往古寶田村と云し由今の大傳馬町は其地の遺
跡にして元名主役なりし馬込氏も其地に住して邑長なりしとそ御
当地御繁栄に付御城外に擴け有りし附町を取除られ此地に移さり
其旧地に有し鎮守の神宝田稲荷をともに引うつれ今大傳町馬込氏の
地面奥に宝田稲荷の小祠勧請せり　此馬込氏寛政四の頃退役させ再寛
政の末に至り元の如く傳馬名主役とも将平八に被仰付
或太田道灌発句に
千代田より宝田以つる間米哉　此自筆を馬込勘ヶ由方に所持せしと云
小傳馬町はむかしの千代田大傳馬町は昔の間米之と云云後馬込と
改

○肴店　同二町目俗に肴店と云毎年正月十月十九日夜ゑびす講の前夜此処に市立

○云やらさん新道　同二町目新道を云ひやらさんを賣ル古キミセ有り

○通旅篭町　大傳馬町つゞき北大通り

○池洲稲荷　同南新道　別當　延寿院

○此処に池洲屋鋪有りむかし小田原町の鰹此地に河岸と云

○大門通り　通たはこ町　同油町南より大通りを云
むかし元吉原大門口通り筋右呼来れり

○通油町　通たはこ町つゞき北大通り
或云延享子年小傳馬下町を通油町と町名改ると云

○縁橋　通油町より塩町へ架せる大通りあり

○千鳥橋　縁橋南の方なりし　油町新道より塩町新道通りあり
濱町堀に架せる

○朝日稲荷　通油町南新道　別當

○通塩町　通油町東浅草大通り
縁橋向

○横山町　通塩町つゞき北大通り　三町目迄あり

○西本願寺旧地　横山町二町目南側なり

○因初此処に寺地を給り明暦後延宝八築地へ移る今に南側裏門跡井戸有
江戸志云明暦三丁酉五月三日今迄の寺院御用地に召上られ為代地木挽町築地にをいて百間四方の地被下と云云　是今の西門跡の地く

と河り

○浅草橋御門　横山町より左へ行ハ右ハ両国橋の方此橋ハ神田川
小架して見附より外ハ浅草の地なり
奥州街道千住宿道本町一丁目ゟ十二町許日本橋ゟ凡道程十三町程
白石先生紳召して云浅草橋御門ハ越前の宰相殿の兼り也と越前氏
のいふく是ハ今の松平中務屋鋪ハもと上総介殿屋鋪と後に越前
の下やしきに被下故屋敷近くの由へなるへし
按るに今の浅草福井町の辺ハ越前屋敷有りしなり

○本石町　四丁目迄在りと記せ橋東北石町通り浅草橋三十二町 近ル
○東光院薬師堂古昔常盤橋北に河りといへるハ此辺り是慈　師の開
基して太田道灌尊敬ある所也其後小傳町に移り故に今薬師堂前の
名残り又其後浅草今の所へうつさるゝ
○福田村旧跡　今の本石町本銀町辺之といへり
此菓子司大久保氏も古へ今の常盤橋其頃ハ大橋と唱へし比ハ此わ
たりに住居ありしや其頃ト養の狂哥に
大橋を通りし光みこしどれきかし主水の餅を口によせたや
大久保氏其後今の銀町向河岸の地へうつりしや志らし今の居宅
の所に福田稲荷勧請在り是福田村鎮守にて其遺跡也
○金吹町　石町一二町目南横町也
古へ此所に金座ありて後藤治兵衛と云（後藤庄三郎類家のよし）其後御用地と成

其代地永冨町辺にて有りしとも然共功地にして永冨町の内へ功々に割込れしゆえ別に代地の名目出ざると云既に今以て也能拝見町入有之節も永冨町ハ古へ町に有しきたる多く沛見に不出金吹町の代地の所のミ出ると云

元金吹町に新道有しよし今なし

△石町三丁目阿蘭陀宿長崎源右衛門拝領地なり

毎年春阿蘭陀人参府の節ハきたりに来て滞留も

○岩附町 石町三四丁目間南横町なり

○時鐘 本石町三町目北新道 鐘役 辻源七

○江戸砂子に此鐘御城内より下ると云数度の回録に鐘の声あしく成り近年椎名伊豫是を鋳直せり黄鐘調にて長久の音と云

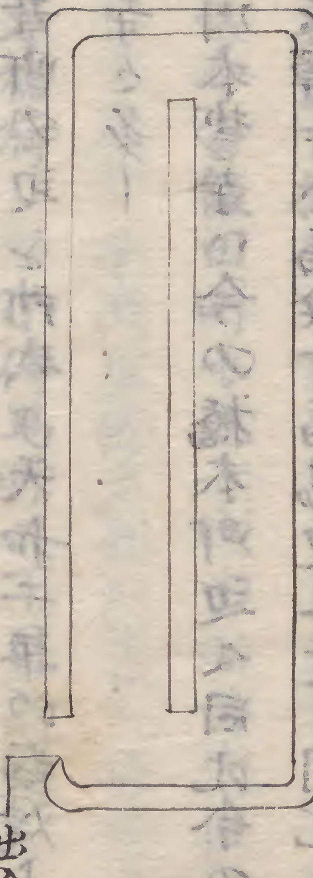
江戸志に云按るに或人の云此説非なり回録の度に焼取る鐘を用鐘ひ以撞楼出来ざりハ新に鐘を車にて引来り焼ける鐘を引替車にて又焼鐘といひ引行に将に是を見し人有とぞ落穂集にむかしハ御城内にて時の鐘を撞せられしも太鼓に改められし鐘を聞馴し者の為にとて石町へ撞楼を立新らに鐘を鋳させられし御城内の鐘ハ其侭に差置せられしとぞ又或老人の云右の御城内に在る鐘ハ昔三州にて出陳鐘にて出入國後御城内にたゝれしとぞ

貞雄云 也御城内の此鐘ハ今西丸也太鼓櫓の側に少し木立茂りたる中に半分ハ土に埋て有しと語る人あり又云石町の鐘ハ新るに鋳られし鐘にあらず今の鐘回録の後宝永八年に鋳直されし鐘なりと語る人有にやりせやえしに彼の詔にありしん銘左の

ましし
寶永八年辛卯四月中院鋳物御大工椎名伊豫藤原重休と有按
るに宝永七十二月十九日誓願寺前小柳町眞田伊豆守中屋鋪より
出火し石町辺焼亡の節此鐘損じたりし故翌宝永八鋳直されし
ことなる
或云鐘役源七由緒は先祖南都興福寺鳴食蓮宗と云僧の由三州
御庫の節に謡初嶋臺作花献し奉り其後江戸にて朝暮二時之六ツ時
相勤む元和の御代鐘に被 仰付十二時相勤此節西御丸鐘拝借して其
後新規鐘鋳立被 仰付しとぞ
鐘役銭差出町々凡四百餘町と云
日本橋南は芝金杉迄西ハ飯田町麹町北ハ本郷東ハ浅草三好町辺
迄なりし

○鉄炮町　本石町四丁目川より北
に鉄炮師住居もす其内胝惣八郎當所名主役兼帯此胝の名ハ
神祖より命せられしと云ふなるよし
○小傳馬町　鉄炮町東三町迄なり
むかし此地は奥州街道にて六本木と云馬継の宿なりと云其故に今に
ちなみに屋馬借などあり此町は慶長中御郭内より大傳馬町同時に引越
しとい小名主役宮辺又四郎江戸に傳馬役勤之其由緒千代田稲荷の
所に委し
○囚獄　小傳馬町一丁目北の方　石出帯刀支
家譜に千葉介之裔と云関東御入の砌此処に大牢なり徒者科ある者
をあつからしめん大番衆石出帯刀支強勢の士なれば預けられしといつと
なく役名となりしとぞ

○馬喰町　四町在　小傳馬東小橋を越る処
此処旅籠屋多し　同一二町北より町付木店と云四丁目ゟ浅草見
付く石町一丁目ゟ此見付の通り十二町許り
○馬場　同三丁目北裏通り郡代屋敷前なり
此馬場を追廻し馬場と云明暦の火災後ゟ常の馬場と成
慶長中関ヶ原御陣の時御勢ひ揃へ在し処と云元高木源兵衛冨士年
七と云　公儀ゟ馬ユ郎頭馬場を預りて馬喰町と称せるも此縁なり
とそ
或馬口労とも云又馬駒郎とも云よし
今馬口労ハ高木源兵衛此の名主役兼帯
○山木傳左衛門本石町名主後兼帯　此両人毎年武州多摩郡府中六社
祭礼馬市へ神事に罷出る事恒例にて市馬請取社地に参り市寄附の
馬場乗廻し社ハ是大権現宮へ参詣其市馬ハ毎年両人拝領今以相勢
右府中六社の縁記に委し
江戸志ニ云貞雄云此馬場ハ追廻し馬場を云之子細ハ土手の築方此
図のことく中の土手を廻りて乗る之因て追廻しと云とそ是江戸古
圖ニ記へしかり



是ハ明暦の火災の後馬場
一筋に成しなり

諸戦国の馬場追廻しに乗事あるに出陣の勢揃大将見物之時ハ中
又の土手を隔て乗廻しにて大将押しつゝあと見るに事なりと云
○此地ハ郡代屋鋪元伊奈氏久しく住居の地なり

いふ也馬喰町上寺町と云しハ今の元岩井町の所なるへし
又横山町片町とも古き図にみゆる也
○深川雲光院慶安中御建立在と云ハ今の郡代屋敷の地也明暦後今の
亀井町の辺を所代り天和二年の類焼より深川海辺新田に移る　此
外寺々多し
○深川本誓寺ハ今の橋本町辺也同比今の地にうつる
○同法禅寺ハ馬喰町馬場辺也是も同比今の地へうつる
○本所弥勒寺或古図にミろくいんとあり
○浅草天嶽院ハ橋本町辺明暦後今の地と成
○同善徳寺居沢より此地へ移り明暦後今の地
○同聖徳寺居沢より横山片町明暦後今の地
○同慈眼院元神田辺と云ハ此辺也然るに横山町辺にだいげん寺と云在
此寺の事なるや是も明暦後浅草今の地へうつる
○駒込願行寺此辺馬場中通り在り角にあり天和後其外せんかう寺大
正寺清水寺だいげん寺地蔵院浄安寺延応院唯念寺在り何れも天和
の比町家と成る
○或云今常盤橋内千代田稲荷是ハ古への千代田村遺跡なるよし云り
○猶其證を紀すへし
○又云今の飯田町も元千代田と呼し由いへり
○於専稲荷　小傳馬町二丁目新道　別當
○小橋　小傳馬町三丁目より馬喰町へ架る濱町堀にかゝる

○亀井町　小傳馬町東北所竹籠細工職人多しいかしくけし小雲光院弥勒寺河り

○小橋　亀井町より橋本町えわたる

○橋本町　四町河り天和の頃迄寺地ニて千駄辺願行寺深川法禅寺同本誓寺河り今此辺願人修行者の類多し

○元岩本町　神田橋本町川さき神田堀北河岸く

○江川町　橋本町川さき北通り

○本白銀町　四丁目迄河り本石町北の通り

○本阿弥小路　本白銀町一丁目新道之今なし

○白旗稲荷社　一町目　別当　大壽院 三宝院流

古へ石町銀町辺福田村と云し頃より其鎮守なりと云

和銅四年の起立と云

○観世音旅籠　四丁目　別当　慈眼院 天台宗 上野末

本尊千手慈覚大師作　祐天大僧正飯沼弘経寺住職の頃香経私之

宝暦中此所ニ安置其前ありしく石町辺ニ河り今毎月十七日より廿三日迄参詣多し

○白銀町封疆

明暦大火後火除として銀町二丁目より長七町の間北側町屋取除き高サ

二十間程ニ新土手築かる此土手の土ハ湯嶋妻戀下酒井家内の山を
崩し取て築かるとよし

○此時の代地霊岸嶋銀町同塩町え

○神田堀 右土手通り神田の地ニ境ふ

○此堀ハ龍閑橋より銀町通り図付塩町小傳馬上町亀井町迄凡八町の
間故ニ神田八町堀と云夫より南ニ折まて濱町堀ニ沙〻あり此堀出来
ハ土手の築より後ニして天和年中なるへし古江戸図を見て知るへし
し天和三堀成るといへとも元禄二の図に土手ハ在て堀の形なし然
ハ其後ニ猶可考

○右の堀ニ架たる小橋多し左に志るさん

○龍閑橋 此堀端河岸通り銀町ゟ鎌倉町へ架る

○小橋 銀町四丁目中程白きし稲荷脇

○小橋 同一丁目二丁目間より新かちや町へ架る

○今川橋 同二丁目三丁目間大通り

○此橋ハ堀出来の時よりかゝる今川善右衛門と云者掛ると云

○誓願寺橋 同三丁目四丁目間より宮町へ架る

○小橋 図附塩町ゟ紺屋町へ架る

○小橋 牢屋表門前より紺屋町へ架る

○小橋 同裏門前より九軒町架る

○甚兵衛橋 亀井町ゟ元岩井町かゝる今埋メ橋となる歟

○小橋 亀井町中程ゟ元岩井町へ架る

○小橋 同所より橋本町へ架る

○是より濱町堀へ続くなり

○都合橋十一ヶ処なり

○囚付塩町　銀町四丁目東　本名大傳馬塩町或小傳馬下町

○小傳馬上町　囚付塩町より囚獄火除の地を隔て東の方
此処戸障子建具職人多し古へ此地に東光院薬師有りし故今に薬師
堂前と云
此辺古き図に志ゝ縄町と在是ハ獄舎の人足役を上下町にて勤る故
俗に志ゝ云といへる説有り以かゝ猶尋ぬへし

○千代田諏訪稲荷相殿　小傳馬上町新道　別当　教光院 三宝院末
神躰慈覚大師の作
當社縁記に云當社諏訪神ハ往昔湯嶋郷に有ていつれの勧請と云を
志らん文明十戌年太田道灌彼地に天満宮造営の時忍ヶ岡に遷し相
殿千代田稲荷ハ千代田若狭守太田道真次男寛正中の勧請諏訪の地
ま社を建白狐の神を祭る故千代田の号有り寛永中に此小傳馬町市
中辻もと云又此地に辻も事ハ千代田氏家臣長野又四郎正友の末
葉此処の町長と成り長野を改め宮辺又四郎と云其支配の地故に爰ニ
社をうつし鎮守とせし正保二丙戌年二月初午神事執行 諏訪の祭礼ハ正月十三日也
予按るに江戸砂子等に此地をさして古へ千代田と云をいへり此
説非なり郭内千代田村の地に有りし小傳馬町を爰にうつされし
として然るへし
又小傳馬町爰に引しハ慶長十一のよし夫より廿年程後寛永中此
祠此地に勧請ありもてま大傳馬町ハむかしの間米小傳馬町ハ昔
の千代田と云へる事在り此社を千代田といへるに縁記にも千代
田若狭守の事有りいつれにても千代田の地より引きし社ならん
安永戊年当社開扉有り其節太田道灌千代田若狭守所持の武具等

並ニ宮辺氏身替観音なと称さしむ

△常盤橋呉服橋間也堀端

○一石橋　北鞘町より呉服橋の方ニ架せ

○北鞘町　一石橋東北　古ハ刀職人軒並多し今なし

○裏河岸を俗ニ真木河岸と云

○呂川町　北さや町東

○釘店　本名呂川町裏河岸と云　古図ニハ□鍋町とあり　鉄物屋鍛冶屋
多し故俗ニ釘店といへり

○本両替町　常盤橋東

後藤庄三郎拝領屋鋪宅地あり世ニ金後藤と云　同支配金座あり本両
替屋あり今其家減少せし其比ハ二軒ありといへし

○駿河町　本両替町東

○越後屋呉服店同両替店三井あり

○瀬戸物町　本船町東通り下の方伊勢町と入組
むかし此処ニ瀬戸物売られ初し水野兵四郎大原何某なと十八軒あり
し今なし乾物屋多し

○同裏河岸　せとものの町北うらし通り浮世小路ニ向て有当町ニ続

○福徳稲荷社相殿五霊社　神主　森村摂津守

○本社ハ相州太田道灌武器を祭れる社と云森村氏の祖此処ニうつし
鎮座年代不知旧社なり往古より稲荷小社有て此辺の産土神のよし

○本小田原町　二町あり　呂川町東ニあり

○魚鳥問屋あり　一丁目ニ板新道と云あり
○長濱町ハ小田原町南通り也
○産千代稲荷祠　長濱町　神主　山崎氏持
○安針町　同処同し
○求京雑記ニ云西洋の者安針元和中住居し後ニ三浦安針と改当町を給ひし処といへり　同書ニ云往古増上寺此処ニありしと云此説不詳
○常盤稲荷社　安針町　神主　山崎氏
○八軒町　いせ町西より二町を呼へり舟宿多し
○本船町　日本橋東北　俗ニ魚河岸と云
○此処ハ毎朝魚市立江府第一繁花の地也
古図ニ大舟町とあり是ハ小舟町ニ對して云なるへし
きさらつ河岸　高間河岸　世ニ云ニ河岸なと俗称あり

○伊勢町　本船町の東ニ有東側堀西片側町瀬戸物町ニ入組廣き地也
米問屋多し故ニ俗称米河岸と云
○伊勢町堀　江戸橋北の間入堀ありしめ橋より伊勢町通り鉛の手ニ浮世小路まて堀留る伊勢町せと物町裏河岸北の河岸ハ本町三町目うら〱河岸同四丁目うら〱塩がし也
○江戸橋　日本橋より二丁程東同し川筋
此橋南ハ四日市廣小路　北ハいせ町　西ハ本舟町　東ハ荒和布橋也
○荒和布橋　一名六助橋　本舟町より小舟町へ架る
○小網町てりふり町へ通り也
此橋際ニ荒和布心太海草類の店あり
○中の橋　伊勢町より小舟町へ架ル泉橋と云か

○照降町　本名小網町よこ町堀江町よこ町と云
雪駄下駄のミせ軒を並ふ故ニ俗称志かいふてりふり町とも又てき
ぬき町ともいへり
○小舟町　三町あり西側伊勢町堀へ一丁目ハ河岸先橋の方三丁目
ハ堀留の方此町々塩物干肴問屋多し
三丁目西北角毎年神田天王宮假屋立六月十日出輿同十三日帰輿ス
○堀江町　四丁有　此処うちわ問屋有り冬ハさつまいもを商ふ
○同新道あり
○親父橋　てりふり町よりよし町へ渡せ
むかし元吉原の頃庄司甚右衛門かくる処と云

○堺橋　堀江町より新材木町へ架る俗ニ和國橋と云橋向ふに和国餅の
みせある故に同し堀にかゝる也此堀止を堀留町と云
○新材木町　堀江町向河岸材木屋多し内多葉粉河岸と云ふたはこ
の荷舟上ス之
○同新道　俗ニいなり新道と云
○杉森稲荷祠　同新道　神主　小針氏　俗ニ稲荷新道と云
社傳ニ云天慶中藤原秀郷勧請と云又寛正中太田道灌山城稲荷山を
模し五社を祭祠る処そいにしへ此処ハ杉の木立ありて杉の森と云
ひし由縁記ニあり
祭礼四月十六日隔年と云近き頃三十年来祭礼不出祭礼不出町々ハ
新材木町　新乗物町　長五郎屋鋪　庄助屋鋪　堀留二丁目　ふき
や町　岩代町　田所町菓子商賣の者等なり

右堀江町ゟ濵町辺村松町辺迄渡るなり
○江戸志ニ云或人の説ニ昔此処ニ小針孫右衛門と云町人居住しける家ニ
此屋鋪内ニ有し稲荷の祠く其後延宝七年五月廿九日火災有て此
辺不残類焼此社のミ残きり諸人是を奇とらん其後吉川何某とかや云
し人信仰して新たに蛭子と姫大明神を相殿ニ孫右衛門屋鋪枚の
木立少々有ける由神職小針ハ由縁在て此名字を譲り受たり以前町
屋の裏ニ有諸人参詣の道てなかりしニ元禄十六ハ本多弾正少弼忠時
寺社奉行の時社への道を給りしと云云
○庄助屋鋪　乗物町稲荷新道より之町
○新乗物町　新材木町東　乗物屋多し
○人形町　むせ川町西より之町く本名西側ハ長五郎屋鋪庄助屋鋪く
東側ハ長谷川町之又私ニ雪踏町ともいへり東かニ人形屋多し西側
せつた屋なり
○長谷川町　新乗物町東古キ圖ニ称宜町とあり明暦後の図ニハ長
谷川町とあり
古き書ニ芝居続き町とありと云案るニ芝居の有りしハ寛永の末慶
安の頃の事ニ猶考へし
或云いにしへ枚の森神社殊ニ大社ニて其称宜なと此辺住せしゆへ
かの川ありし号くと云此説いかゝ不詳
○三十郎稲荷祠　むせ川町　別當
○三光稲荷祠　むせ川町新道　別当　安楽院
元むせ川町南側うらにありて年久しく借地ニてありしを近辺地主の
夢ニ告有て其地面ニ移せしは寛政十の頃ニて宮居新らしく造立あ
るなり

○富沢町　もせ川町東　古着屋多し古図にかまり町とあり
同新道あり河岸通りに至り毎朝古着市立あり
落穂集に古へ盗賊鳶沢と云者古手買元メと成此辺にて一町四方の
處を切開くとあり

○栄橋　濱町堀にかゝり冨沢町より久松町へ架る

○新大坂町　私に花町と云此辺元西門跡より山町に有りし頃此辺
にて樒或ハ立て花や多く有りしゆへといへり此花町ハ今本所へ引
ケしと云

○弥兵衛町　新大坂町南通り

○田所町　通はたこ町南通り　同新道あり
此処の名主田所氏

○塩見橋　新大坂町ゟ檻町へ架る

○元濱町　もゐ町堀西河岸と云古着屋多し

○衛橋　元濱町より檻町へ架るもゐ町堀にかゝる
又濱町永井大學殿前の橋も同名あり

○葺屋町

事跡合考ニ云元葭原築立ハ其道筋葭茅生茂り暮ニ及ひ往来なし女歌舞妓願てより日々賑ひて細道しかやを切拂ひ茶店なと立繁昌の町屋と成今のふきや町の処ニて村山又三郎相願芝居興行せ下畧

△大芝居　狂言座　市村羽左衛門

寛永十一甲戌年泉州堺の村山又三郎と云者（名古屋山三郎弟子）村山又左衛門子く此願申上常芝居興行此節舞子五六人ニ能の間狂言をいたし役者共々通しへ相勤寛文元辛丑年村田九郎右衛門名代ニて市村羽左衛門弟彦作と云者相座ニて勤め此頃上方より踊小歌舞三弦の藝者呼下し一番つゞきの離狂言相勤め度々御城へもめされ鳥目時服ニ頂戴申候同四甲辰年宇左衛門子竹之丞十歳ニて玉川主膳と云役者と相座ニて相勤此竹之丞ハ三代目勘三郎弟子ニて霍九敘と中村座より世川らるゝ処之と云二番三番続く式の狂言其外道具立引幕切落ニ此芝居より相始ると云

○堺町

△大芝居　狂言座　中村勘三郎

寛永元甲子年二月十五日　御赦免有之於中橋猿若狂言盡芝居興行是ハ当地男歌舞妓大芝居元祖より然ニ其頃ハ小屋立ニして今の宮芝居のようし

同九壬申年称宜町ニて芝居相勤今の人形町く

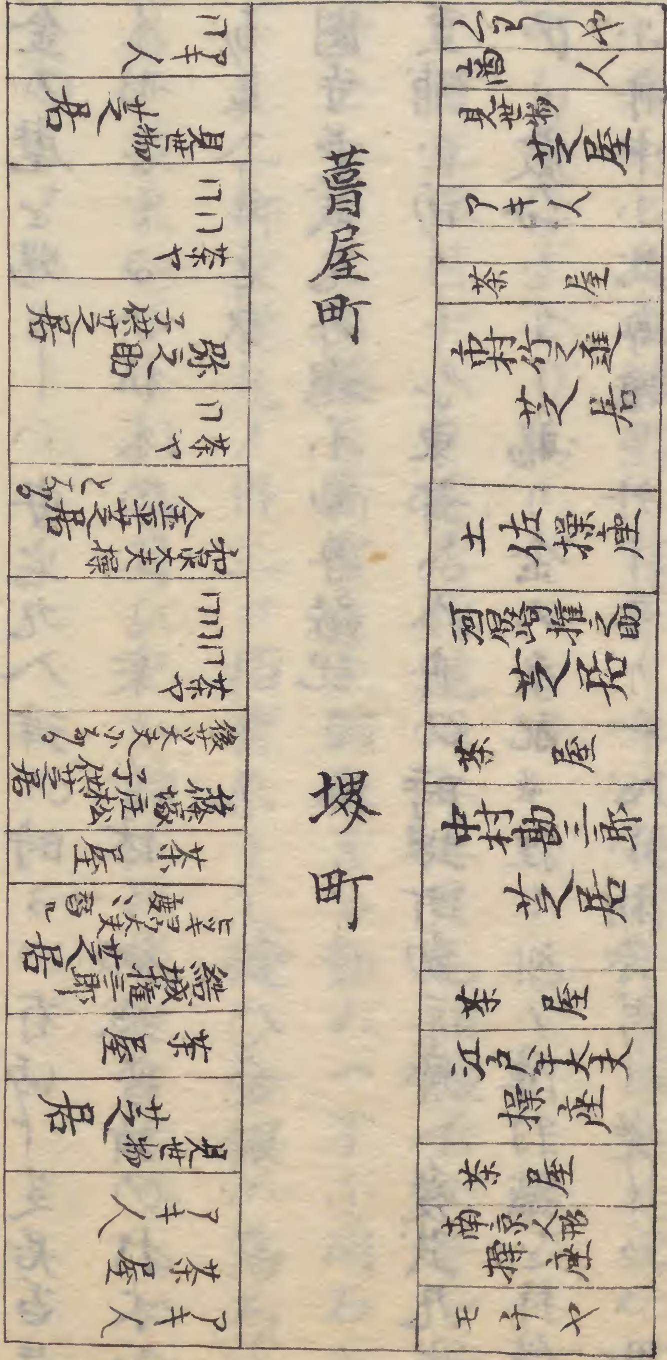
慶安四辛卯年正月 御城へ召され藝盡を相勤此時金襴猿若衣裳ニ
烏目六百貫文戴之此頃より今の堺町へ芝居を代々相続も
或云慶安頃堺町に有といへとも名所記は寛文の書之是には祢き
町と有り寛文は明暦より後之然れは慶安は明暦以前之紫一本に
天和之境町と在り堺町へ移せし年代猶考へし或云延宝の比ハさ
かい町なるなへしといふ

明暦三丁酉年正月十八日芝居類焼同年五月元祖猿若一子を連て上
京し 堂上へ召され猿若新發意大鞁狂言を勤め一子に明石と云名
を拝賜し其上御衣裳丸ノ内三ツ栢紫糸にて縫ひ金銀の箔ありけると
并に猿若の装束を下され九月江戸へ帰る此明石といへるハ二代目
勘三郎事なり
又云寛永九頃伊豆國より阿宅丸御船入津の時猿若金の麾戴き舳先

に立木遣(きやり)音頭相勤と云
或云此金の麾を賜りしハ安宅丸入津の時にハ有らす芝居百年寿の
節猿若人形をこるに材木の上に乗りたる体 御城普請の材木を引ける
時の事なるへしと云
水戸祇園寺亳武丸舟魂不動尊縁記に云
御舟伊豆浦にありしを東都へ入舟の時堺町勘三郎へ愛武丸出舟人
夫押指の 嚴命を下し賜り金の釆配并狸々緋の陣羽織を拝借被成下
ありける小舟中に此尊像を拝し奉り一心に祈念せしかハ御舟自
然と動出るかことく直に東都へ着岸も其勤功によりて件の釆配并に
御陣羽織拝領仕其上猿若の二字を賜り如下畧

△都傳内芝居ハ寛永六巳年始と云明暦三酉年堺町ニて興行と云

元禄年中より葺屋町堺町の圖



○岩代町　私ニ小楽屋新道と云
南側ハ両芝居裏ニて堺町ふきや町の分ヶ北側を岩代町と云此地ハ
宝永九申年の頃町年寄樽屋拝領屋鋪となる神田旅籠町代地両国橋
手前米沢町のたし地といへり

○堺町横町　さかい町東北より町の方とつゞく

○長五郎屋鋪　岩代町より借り人形町と云西側なり

○芳町　本名堀江六間町と云東の方堺町より西の方喜右衛門町へ借り葭町新道と云

○喜右衛門町　より一町南より
古へ所の名主を喜右衛門と云より

○元大坂町　南の方横手を借り曲りと云

○伽羅稲荷　元大坂町　地守奉仕

○土井小路　甚左衛門町大坂町の間より永久橋の方へ出る処東側
の屋鋪前ハ入堀なり此所元土井家の屋鋪並ひ有しゆへ俗に呼来れり

○蛎売町　稲荷堀東
土井家酒井家屋鋪在松し海町辺
享和二戌年酒井左近将監殿立露銀座常是宅地拝領

○松嶋町　住吉町より二丁程南屋鋪の中小河氏町々
伊賀方御庭方拝領屋鋪なり

○松嶋稲荷

○新和泉町　堺町東　北新道なり
南側玄治店と云所ハ岡本玄治拝領屋鋪なり

○高砂町　和泉町東　同新道なり

○住吉町　大坂町東

○難波町　住吉町東

○末廣稲荷　住よし町　別当　山本院

○竈河岸　本名住吉町難波町裏河岸なり

○元吉原旧地　高砂町和泉町住吉町難波町
方二町の所之竈河岸の小堀ハ其時の曲輪外堀之今大門通と云ハ大
門口の通りくと江戸砂子ニみゆ
元吉原開基又相州小田原庄司甚右衛門東武柳町ニ住也
往町慶長中迄ハ江都ニ足りうる傾城町なり二軒三軒ツヽ所々ニ分
散して有中小軒を並へしハ麹町八町〆十四五軒程鎌倉河岸ハ十四
五軒大橋柳町ハ廿軒柳町ハ道三かしと云六大橋ハときはもし駿府弥勒町なとゟ此柳町へ

移京六條傾城町ハ糀町へ移り其外伏見夷町奈良木辻より追々江戸
にうつりし、慶長十年頃柳町の地面召上けしき件の傾城町ハ今の
誓願寺前に引越る此頃けいせゐ屋共打寄相談の上場所取度よし願
ひられとも　御免なき取に庄司甚右衛門と云者初めて願ひけるを
京駿河大坂其外諸国の津湊惣て繁昌所々先規にて　御免の傾城町二
十四ヶ所在之由当地日増に繁昌ニ付定る傾城町無之所々に分散いた
して町の為にも悪鋪三ヶ条の趣を以て願ひけり右三ヶ条の写左に
記しけり是慶長十七年なり

一遊女を買遊ひ候者遊興好色にふけり所の分限を不弁家職を忘
れ不断傾城屋に入込長居仕候へ共傾城屋の義ハ其者の方より
金銀多申請候へも幾日も留置馳走仕候然る間おのれしもの
主人親方へ奉公を欠き剰へ引負横領致候事其傾城屋共金銀を
限りに幾日も留置候故と奉存候一ヶ所に場所定被下候ハヽ只
今迄有来候所の傾城屋共を一所に集メ吟味仕自今一日一夜之
外長留為致申間鋪候事

一人を勾引候義前々より堅御制禁ニ被遊候処今以粗有之候処当地
御府内におゐても人を勾引候程之不届者在之候者子細ハ手前
困窮成者娘を養子と名附貰置成長の後妾奉公又ハ遊女奉公に
出し大分之金銀を取渡世に仕ルヶ様の不届者かなしくあなたに々
しめ能き娘を五三人宛も養子に仕十四五才も罷成候得ハ右娘
に奉公に出し申候實の父母より申訳断来候得ハ種々偽を申或
ハ金銀を出し申様ニ実父母相果候ハヽ又も遠国抔ニ罷出候得ハ
已自由ニ仕傾城抔ニ賣出し大分の金銀を取申候ヶ様成不届者
ハ人を勾引候事も可仕様ニ奉存候　如斯成分とも存勾引之の

養子を相對ニて傾城奉公ニ召抱候者在之候ハヽ及兼申候傾城町被
仰付一所ニても召集申候得ハ勾引者之儀ハ申ニ不及養子娘の筋も
吟味仕左様成者を奉公ニ出し候ハヽ急度御訴可申上候事

一近年世上静謐ニ候得共濃州御平均之事も程不遠候得ハ自然
透間を伺ひ悪事を相企可申諸浪人の類も可在之と奉存候左様
成悪黨之類ハ人目を忍ひ住所をも不相定流浪いたし可罷在候
遊女屋の義ハ金銀をさへ遣ひ候へハ出処詮義仕候義ハ無御座
幾日も留置申候右の如くの族方々之遊女屋抔ニ罷在候事も難
計候此外當座ニおゐて不届仕候者欠落なと仕当分之住所ニも
遊女屋ニ勝きたる処ハ無御座候間所々の遊女屋ニ罷在
申候者假令御詮義者成ともいへともまたやすく御手入申間敷候と
奉存候此義奉願候通傾城町一ヶ所ニ被　仰付被下候ハヽ此義ハ

殊更何者ニても不届者傾城町致徘徊候者其者の出所吟味仕あ
やしく候ハヽ急度御訴可申上候事

右之通御座候間　御公儀様御廣大の御慈悲を以奉願候通被爲
仰付被下候ハヽ難有奉存候以上

慶長十七年の頃

柳町庄司

甚右衛門

右願昼町奉行米津勘兵衛殿江差出処評定所へ被召出本多佐渡守殿
御出座ニて御取向事有りけるよし元和三年頃ニ三月と覚候由訴右甚
右衛門被召出本多正信其外諸奉行御出座ニて甚右衛門願之通被仰
渡如刻被　仰付候上ハ端々ニ至る迄遊女の類一切差置申間敷候若
隠し置者在之おゐてハ甚右衛門并傾城町の者共役目として急度訴

出可申旨被申渡候由其外被　仰渡候五ヶ条書面之寫

一傾城町之外傾城屋商賣いたすへからす并傾城町囲之外何方ゟ雇来候共先々江傾城遣事向後一切可為停止事

一傾城買遊ひ候者一日一夜之外永留致間敷事

一傾城衣類惣縫物金銀摺箔等一切為着用致申間敷候何地ニても紺屋染用可申事

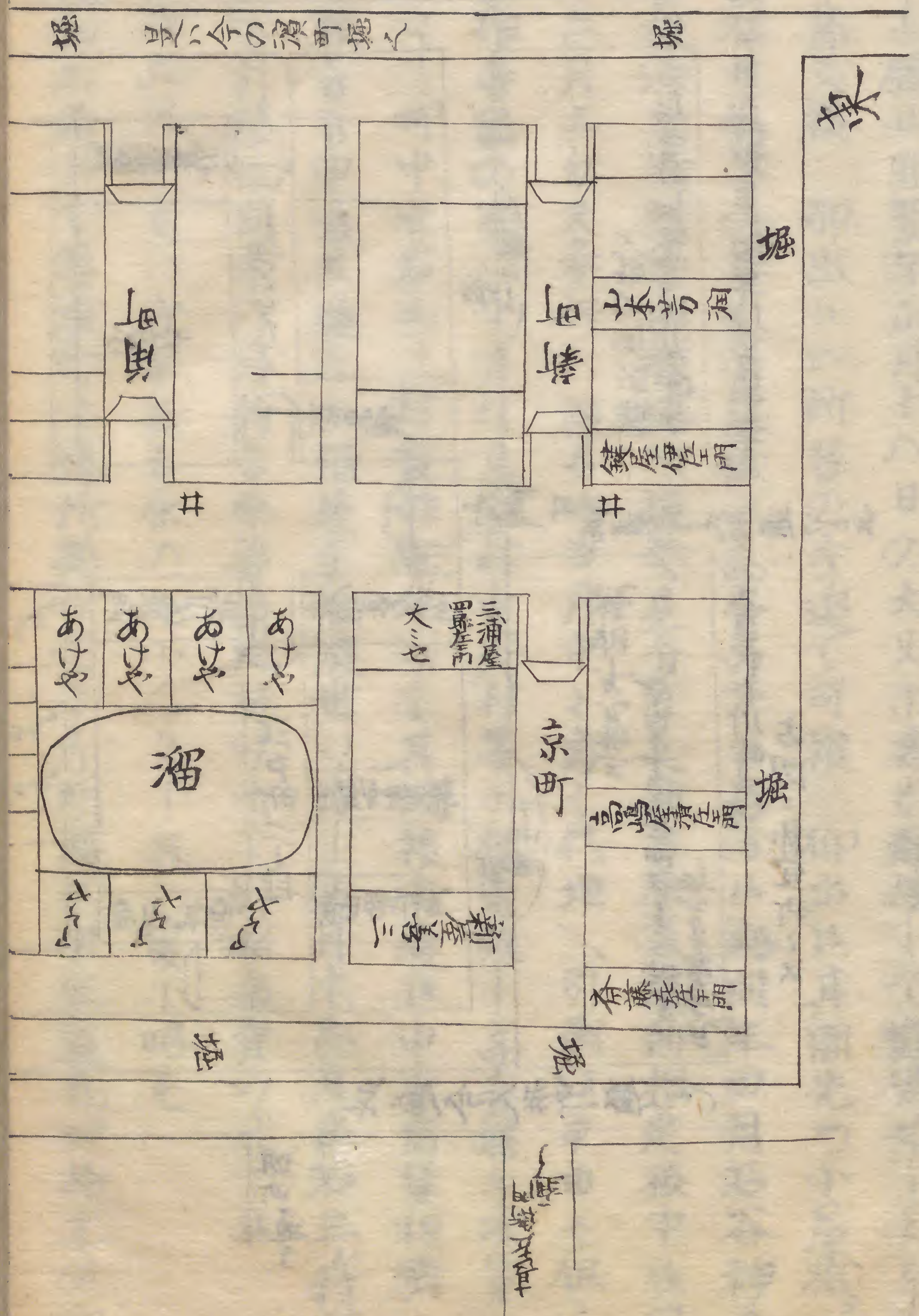
一傾城町家作普請等美麗ニ不可致町役等ハ江戸町々格式之通急度相勤可申事

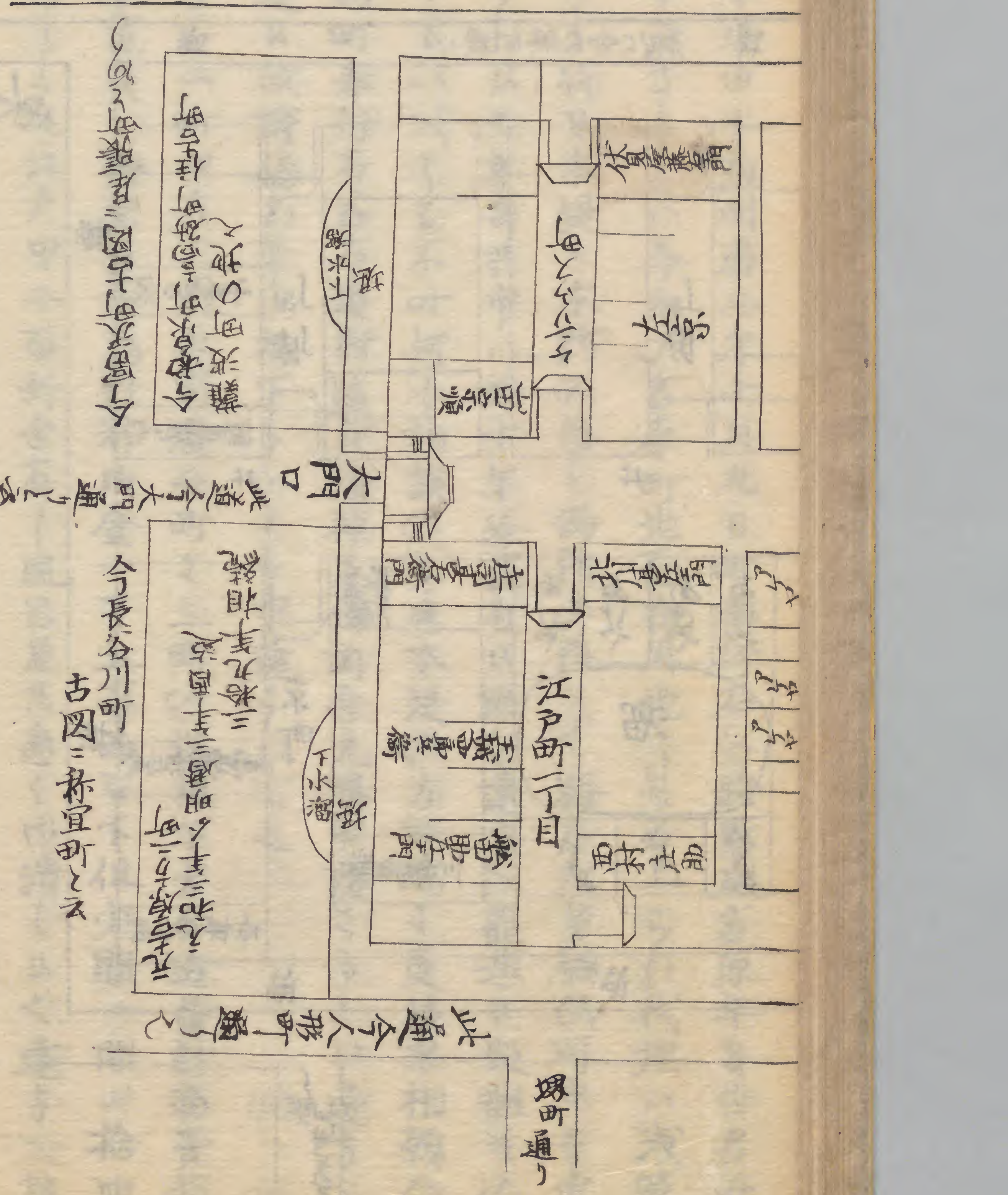
一武家商人体之者ニ不限出所慥ならす不審成者致徘徊候ハゝ住所致吟味弥不審ニ相見候ハゝ奉行所へ可訴出事

右之通急度可相守者也

右者開基之節甚右衛門江被仰渡候此節ゟ甚右衛門吉原惣名主ニ勤む本国ハ相州小田原のものにて北条家落去以後江戸ニ来りける由但元吉原ハ葺屋町下ニて二町四方の場所被下此場沼ニて葭茅生茂りしを築きたりし故葭原と云たりしハせしを文字祝して吉之書替るよし元和三年ゟ地形普請ニ取掛る同年成就して霜月ゟ一同商賣せしよし江戸町一町メハ御一統の後初而開基せし傾城町なく江戸町と名付始メ柳町ニ住せし甚右衛門ニ爰へ引越せしと同二町メハ鎌倉河岸の傾城屋共引越し京町一丁メハ糀町ニ住せし族引こし是元来京都ゟ来りし者共故其所の名とせり同二丁メハ上方の傾城屋共追々引移りて一両年おそく家作りせしより新町と名付けり角町ハ京橋角町ゟ傾城屋共十人計り引移し故名としたし但寛永三年迄ハ町作り不残出来夫ゟ五丁町と呼ひ

申候由し扨明暦二年十月九日町奉行石谷将監殿吉原年寄共召呼出
申渡さるゝハ今迄の吉原町地面御用地ニ付召上られ代地ハ浅草の
うら歟日本堤カ本所の内カ両所の内ニて勝手次第願ひ可申旨申渡
され候ニ付年寄共申ハ四十年余罷有候所を遠方へ罷越候段難儀の趣
申といへとも不叶何も相談の上日本堤の方可然と変談申相願ひ候
両町奉行石谷右近将監貞清神尾備前守元勝申渡さるゝハ遠方へ被
遣候故御徳あまし被下るゝよし申渡されし之
今迄二町四方の所五割増二町ニ三町の場被下旨今迄昼計商売せし
を昼夜御免候旨為引料ニ金一万五百両被下但小間一間ニ拾四両
ありしく江戸中二百軒余有し風呂屋共悉く潰し候て遠方へ被遣
るゝ故出火之節火消等の町役ニ免くと申渡され同年十一月廿六日
浅草御藏ニ吉原町年寄月行事等罷越御金頂戴有しとぞ此節御ニ任せ





早速引越候ハヽ宜敷有へきと吉原の者共明年三月迄ニ引うつり度
よし願ひ候間翌年正月十八日の大火ニ悉く類焼して難渋せしとあり
此節又被 御出候ハヽ所替の義追て可被 御出候処其間先つ小屋掛ニ致
罷在候抔との義ニ小屋掛にて商賣いたし居り候処同年四月石谷神尾
曽根源左衛門等日本堤へ被参見分在之新吉原の場所相定被申候同
年六月上旬又奉行へ被召呼当月中ニ悉く代地へ引越可申由之但し
家作普請の間ハ今戸村鳥越村山谷村等ニ借宅致し商賣勝手次第ニ
いたし可申旨右三ケ村百姓ともへも其段被申渡候由し宿賃相對ニ
可致旨ニ申渡其通りニ借屋して渡世いたし六月十六日迄右三村借
屋へ引移り同年八月新吉原普請成就いたし引移商賣いたし候
但此外の事ハ浅草新吉原の処ニくわしく故ニ爰ニ略も
元和三始メて傾城町の場所給りてより明暦二申年迄凡四拾年の間

是を元吉原と云
○濱町
此濱町と云地至てひろく西国元矢の藏と云処ゟ南新大橋西南へかけて永久橋きハ松嶋町近所竈河岸向ひ迄惣て此辺武士地の処之
○濱町堀　此堀筋に架せし小橋小傳馬町ゟ十三ヶ処もかゝり有此堀ハ元新大坂町辺ニて留る天和頃白銀丁土手下堀剋の時ゟ此堀へあり川づあるなり
一亀井町ゟ橋本町へ渡せる橋
一小傳馬町ゟ馬喰町へ渡せる橋
一緑橋　通油町ゟ通塩町へ渡せる
一白鳥橋　通油町南新道通り
一塩見橋　新大坂町ゟ塩町へ渡せる
一榮橋　冨澤町ゟ濱町へ渡
一高砂橋　高砂町ゟ濱町へ渡
一難波橋　又難波町ゟ濱町へ渡若松町の方小川橋とも云
一入江橋　難波町河岸ゟ濱町かし通永井屋敷の方へ行橋
一組合橋　濱町永井家表門の前ゟ大橋の方へ渡せるちとりはしとも云
一小橋　永井家脇ニあり是ハ組合なり
一川口橋　清水館前ゟ酒井修理殿前へ架せる三股出口へ
一高橋　永久橋きハ濱町河岸通りの是ハ濱町堀ニ非也
一酒井家屋鋪へ渡せる小橋ハあり堀の方
一塩留橋　行徳河岸ゟかきがら町へ渡せる稲荷堀川口也
△塩見橋向　新大坂町ゟ架せる
○塩町　四町あり　横山町南通り
○玉尾稲荷
○久松町　冨沢町ゟ榮橋を越久松町ゟ村松町へつゞく
○村松町　塩町南通り北片側町南側ハ武士地あり
○此地支配名主を村松氏と云
○若松町　久松町つゞき南
○横山同朋町　塩町東　此町西片側町之東側武家之

○山伏井戸　濱町堀淡路守殿うしろに有り
此辺地名となれり

○矢の御庫跡　或ハ野の御蔵とも又八の御蔵とも有り
今の山伏井戸の辺より冨沢町の北川を境として北ハ両国の廣小路
元柳橋辺横山町同朋町迄一囲の御蔵地也元禄十一年類焼後築地門
跡東南海端へ移りける其跡武士地と成米沢町三町分是右御蔵の地
故に米沢町の名有りといふ

○矢の御蔵ハ今田沼家より北也是より南板倉家堀田家の屋鋪の所を（今ハ一橋卿の御用地）
間部河岸と云（元禄比間部家鋪　鋪ニ有り）
一或云既に此横山町二町目三町目とも元禄中迄ハ南側矢の御蔵也
一北側片町也御蔵築地へ引けて其跡本町一町目金後藤拝領屋しき
一代地に成る此処も門跡の寺地也明暦比のよし

案ずるに矢野と云へるハ此地の古名なるか今に元矢野倉と云へる
よし
今阿部川町延命院元矢ノ倉に有り明暦後今の浅草に移るといふ
同じく源寺も同所なるか或今の田所町辺とも云正保中今の浅草の
地へ移る但し御蔵の大川端の方なるや今に矢野ヶ源寺と云へ

○薬研堀　矢ノ御蔵の船入堀也元不動の前より元柳橋の方へ曲りて
有其かたち薬研のごとき故左にいひし也明和九埋立地と成今元柳
橋の方に堀少し残れり

○薬研堀埋立地
明和九辰年堀を埋立町屋と成以前堀の頃米沢町通りに大和橋と云
有り俗に尼ヶ橋と云今なし

満足不動尊　世ニ茶研堀不動と云　菴主　明王院　上野末

此尊像古ヘ総州ニ有り元禄中迄両国橋東回向院前菴屋町ニ旅宿有り其後今の地ニうつせり毎月廿八日殊ニ群集せ

同所新地

下柳原同朋町　神田川河岸北浅草見附え

柳橋　浅草橋下大川口是を新柳橋と云え此辺の地ニ植木溜と古絵図ニみゆるせり

舟宿　見附と柳橋の間　同朋町河岸通り

猪牙船長吉船の略語ゟ押送り長吉と云者舟の形チを茶研のごとく至て早し是を考へ見附の玉屋勘五兵衛と両国橋笹屋利兵衛と云者始之とせ其上艪を二挺ニして二挺立と云正徳三年三月御停止と成

此時楼船ハ百艘ニ極ると云

吉川町　米沢町向側

米沢町　三町有り

横山町三町目代地浅草御門除広小路と成りし代地え

両国広小路　東西

此処ハ常ニ盛り場ニして浄瑠理見世物小芝居楊弓場講釈場物真似豆蔵女太夫浮世咄茶見世酒肴其外食類貴賤の商ひ七年中昼夜賑ひ繁昌の地ニして別て夏月ハ大川一面ニ楼船屋根舟水面をふさき江都専一の納涼舟遊ひ琴三弦踊声色浄瑠理いりまじり玉屋鍵屋の花火火術目を驚し国の群集おしまけられも誠ニ夜深更ニ及ぶも志し盛ありさまなり

○両國橋　大川東西ニ架ス　長サ凡九十六間と云
万治二年初て掛るゆへ元大橋と云けし
此橋掛られさる以前ハ牛嶋の渡しと云来（風雨の節ハ渡し舟止ッて往来難義なりしと也）
此川を以て武州総州の境と云へるより両國の名あり今ハ本所も武
蔵國ニ屬せりとぞ
然るに天和の末故ありて此橋を引きましてより本所も田地と成りしに
幾程なく御恵の御沙汰ありて再ひ掛る由悉に極り仮橋を懸けさせられ
今大川通り板倉侯の屋敷の所ゟ本所尾上町南一ノ橋川口の所ニ掛
りし此所を元両国と云ハ誤也元両国橋ハ今の橋の所万治中最初の
地也一ッ目ハ暫く仮橋の跡也
寛保二戌年四月十五日ゟ御修覆の事にて往来舟渡しと成一ヶ年及ひ
し処延享元甲子年五月御普請不日にし成就せしゆへ此年迄大川通り橋
なし渡しにて諸人難義せり
此御橋ハ公儀御入用橋ニ而請負願人も有之といへとも不被
御付けし水ふせき見守橋番所両所ニあり誠ニ難有御仁政なり

○難波橋　一名元柳橋と云　大川入口入堀ニかゝる

○夫婦柳　右橋詰ニあり

○間部河岸　元禄頃間部家屋鋪有し故俗ニ呼ふなり今板倉家堀田家
屋鋪の河岸なり

○両国橋新大橋の間西河岸間部河岸のつゝきの路ハ無之所元禄十六
年未十一月廿九日火災の時此辺通路なくして人々難義せりよりて翌
宝永元申年ゟ往来出来しりとぞ是世ニ地震火事と云

○乙ヶ渕　両国大橋の間　大川の中と云其所不詳

○新大橋　両国川下　日本橋より廿六町卯の方
橋長サ百六間ヨ
元禄五年初て架く一説に同六年と云非く両国橋元大橋と云し其次
にかけし故新大橋の名あり
延享比頃より橋請負人有之武士の外渡銭二文つゝ取之渡せ
ばせを翁　深川大橋半ばかけし頃
初雪やかけかゝりたる橋の上

同　大橋成就せし時の句に
有がたやいたゞきて踏橋の霜
但此句ハ元禄五酉年の事なりとぞ

○三俣　新大橋下三ッ合の川の別ちを云　三ッ流三叉とも
名所記に云むかしは三俣と名付る事浅草川新堀芦岸嶋此三方に相通
して水流別れ流るゝ所なればかく云く
八月十五日の舟遊ひめでたき事のかぎりにいへり

江戸砂子に云寛文二寅六月十日
将軍家三俣御船遊ひの事前代未聞の壮観なりと云云

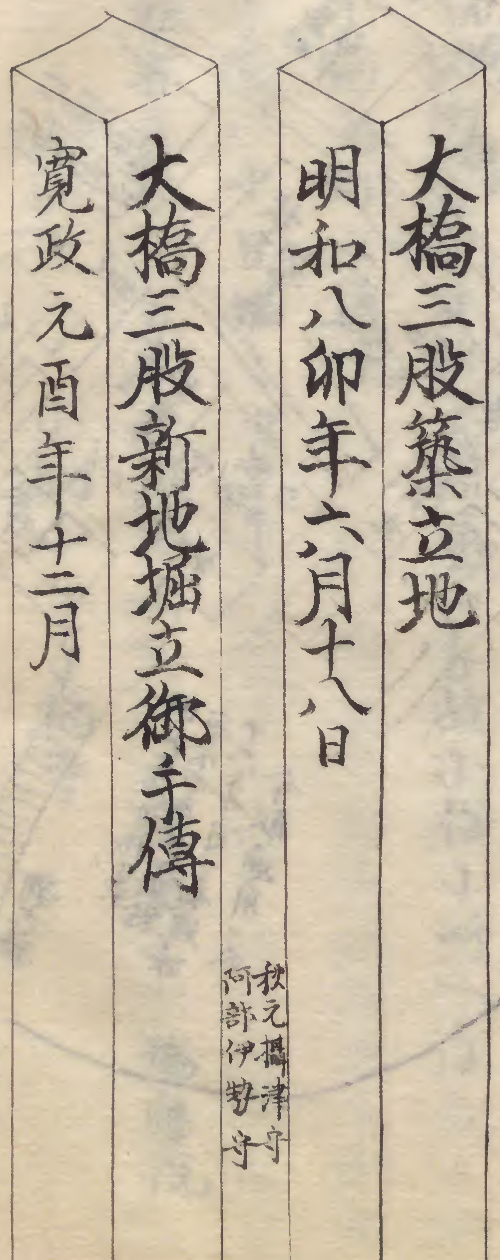
別きの渕　三ツまたふ河り洲と水とふ別きる

廃三股新地　中洲ともいふ

明和九辰年酒井家前通り川岸を埋立安永四未年全く築成り家居立つゞき町銘三股冨永町と唱へ夏月涼の頃至て賑ひ其繁昌いたしかさなれし天明五巳の夏又築出けるか寛政二戌年元の海地と成同時小両国つゞき新地其外ともに新規の地皆以前の姿となるもの也明和八卯より寛政元酉迄十九年の間く翌戌年二月の頃迄かくの如く大川と成此埋立の土ハ御船蔵前の土を浚て是を築かる安永六丁酉夏頃より繁昌せり

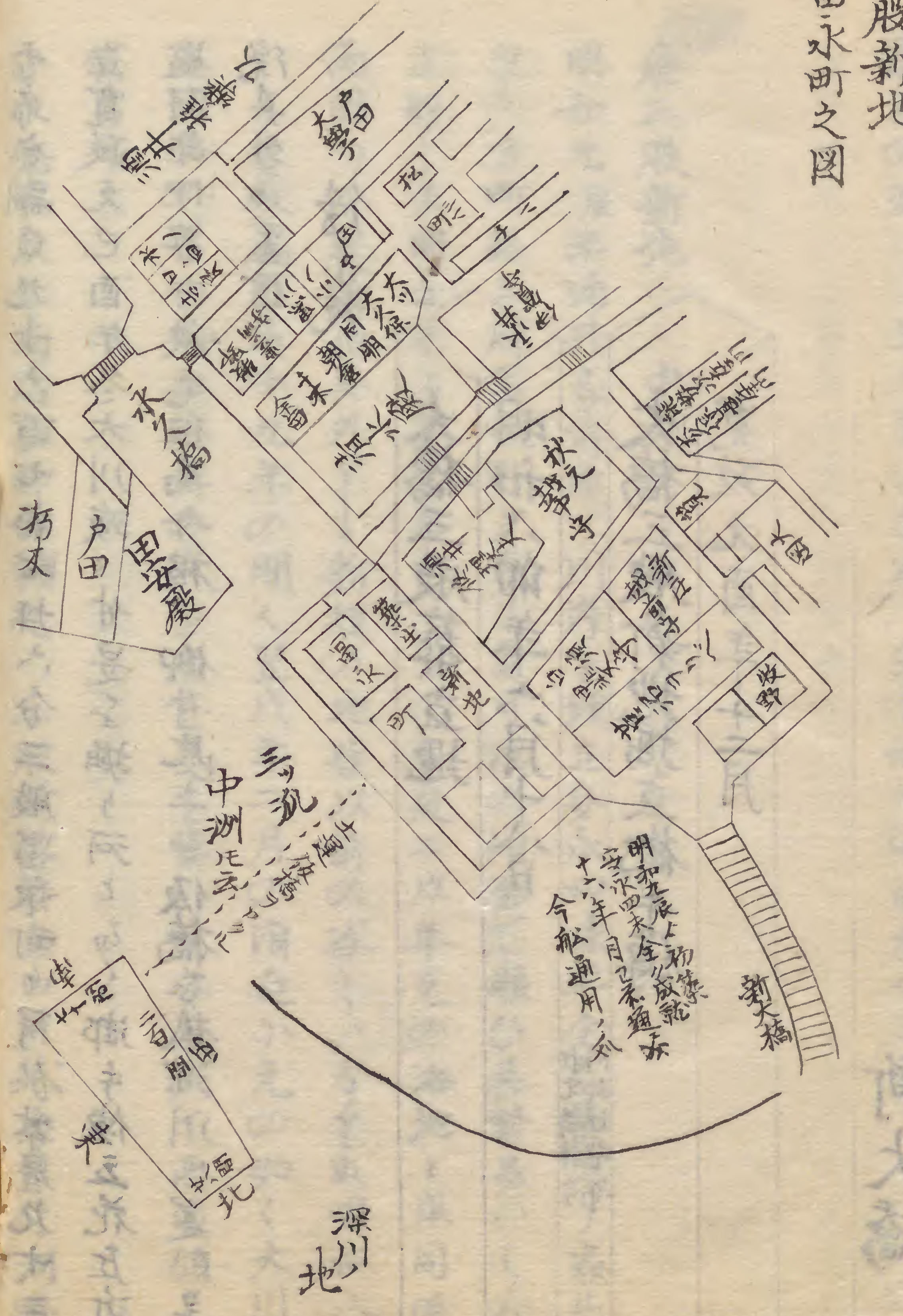
安永元壬辰年馬込勘解由願之　三股新地築立也用掛り也目付河野吉十郎安嗣○九千六百七拾七坪六合三股冨永町と号ん茶屋九十三軒立寛政元巳酉年冬大川浚ニ付是を掘り河とある御手傳五花左近将監阿部伊勢守秋元但馬守被　御付此土を仮橋を掛深川へ運ひ其運院其外に置候

傍示杭



新大橋

三股新地
冨永町之図



○小網町　三町河岸　永代橋への通りく

△同一町目横町を横居と云俗名なり

○思案橋　同一丁目ト二町目ニ架ル

○格思橋　小あみ町ゟ甚左衛門町へ架ル

○安永八亥年此堀を埋められ今埋メ橋と成

○貝杉子店　同所ゟ小貝杉子問屋有る故ニ俗ニ呼へり

○稲荷堀　小河ミ町ミ通り

○安藤家屋鋪ニて十日堀とも

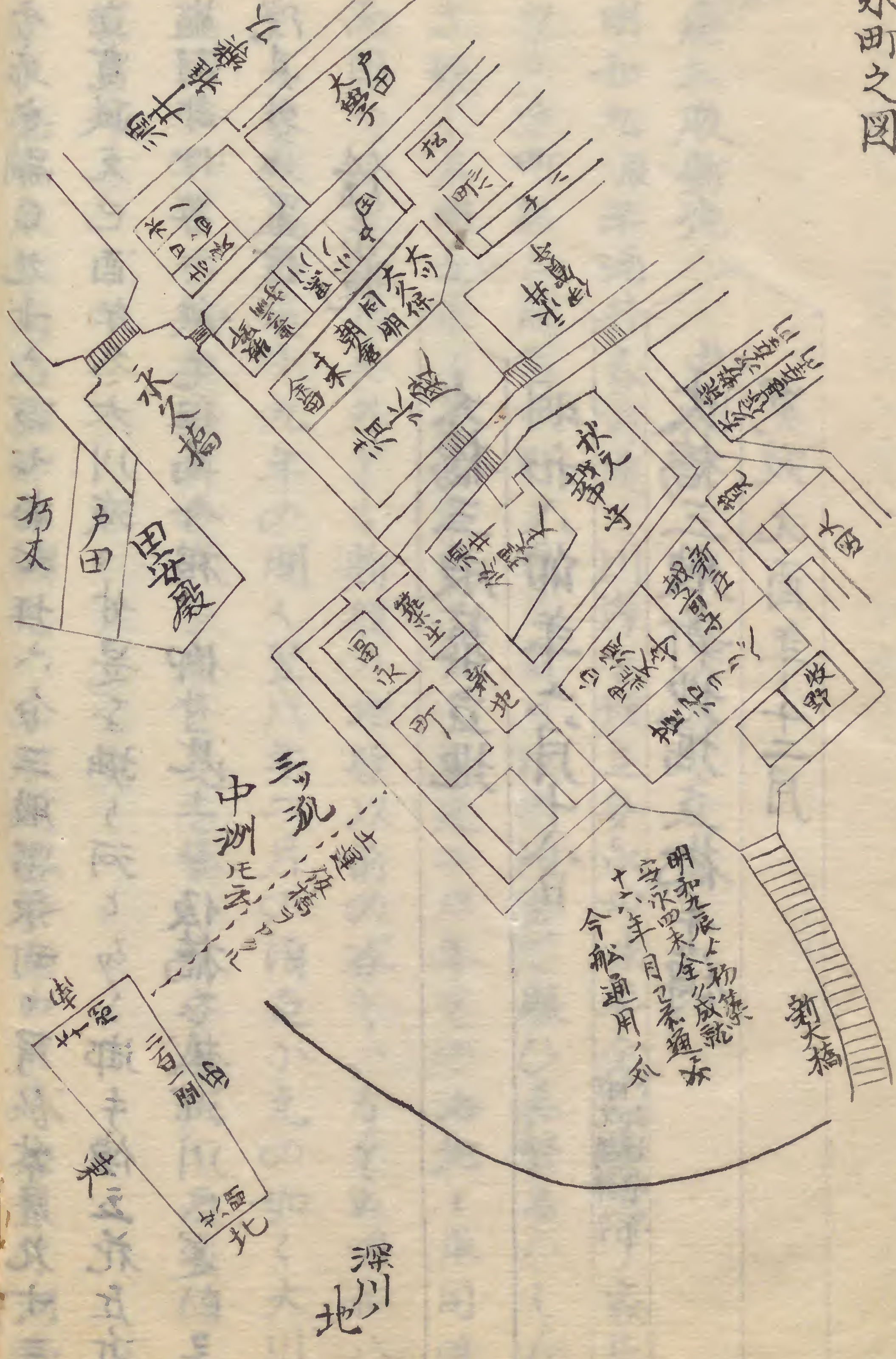
○稲荷祠　此社有る故ニとうか堀と云く　別當　瑞應院

○小網稲荷　別当　小網山　万福寺

○鎧の渡し　小河ミ町二町メゟかやを町へ渡ス

○行徳河岸　小河ミ町三丁メ北河岸

三股新地
冨永町之図



○小網町　三町有り　永代橋への通りへ

△同一町目横町を堀留と云俗名なり

○思案橋　同一丁目より二町目に架る

○格思橋　小網町より甚左衛門町へ架る

○安永八亥年此堀を埋めらる今埋め橋と成

○貝杓子店　同所ある貝杓子問屋有る故に俗に呼へり

○稲荷堀　小網町の通り

○安藤家屋鋪有て十日堀とも

○稲荷祠　此社有る故にとうか堀と云へ　別當　瑞應院

○小網稲荷　別当　小網山　万福寺

○鎧の渡し　小網町二町目より茅場町へ渡る

○行徳河岸　小網町三丁目北河岸

此処ハ行徳船の着所故ニ俗ニ呼へり

○小橋　行徳河岸ゟかきり（し）町へ渡を汐留橋端といふ

○崩橋　小網町三丁メゟ箱崎へ架る

○箱崎　通りゟ左りの方　箱崎丁と云二町計り片側之

此地ハ寛永以後出来るなり但し年代未考

同埋立地　享保中堀浚揚土を以て町屋を築其後宝暦の頃中堀浚

土を以て又築出せを埋立地と云（今箱崎町二丁メニ附）此地までへて箱崎といへ共

築地の所箱崎町なり

古老云　此所武士地の分ハ古名朽木嶋と云しといふし朽木家そ

築きし所なりん

今田安公の中屋鋪の地元堀田家之今戸田家の処元阿部家之朽木久

世の屋鋪之俗ニ永久嶋とも云（元正位今田安中守享保頃図ニ阿部豊後守と有）

○永久橋　元禄の頃かけし由と云

延宝の頃橋なし町ハ後ニ出来箱崎町と云

橋ハ享保十七八頃箱崎町東ニ在今ハなしと云一頃ふえて後又かゝ

るゝ延享の図ニハ橋なし

○永久稲荷　同橋際ニ有り

○北新堀町　箱崎ゟ東つゞき永代の通りゟ南の方ニ湊橋有り

此所日本橋川筋此辺新堀と云川の南を南新堀と云

○大川端町　永代橋手前

○乙女橋　本名豊海橋と云　新堀大川口

永代橋廣小路ゟ南新堀町へ架る

○御船番所　永代橋南手新堀川口にあり
往来の船を改む
○御船手組屋鋪
○高尾宮　永代橋西橋詰　かしこにもみちの木を植たり世俗に
此宮は頭痛の願を懸け成就の節櫛笄又鷹を画し繪馬を納む是遊女
高尾三股水中に空敷成其髑髏水に漂ひしを此所に埋め塚を築きし
処と云傳ふ然るに其実説は元禄十四正月元日某頃御船手頭大河
内又十郎殿屋鋪玄関に何ともしらぬ女の首有り人々驚く処大河内
氏云是成昔は人の願を掛る事或は武門に於て吉事之と悦ひ是を祭
高　雄　彼　霊神　地神と崇め置けるいつの
世よりか高尾の事を云ふれけり是時の大小相違せり
世上にかく様の類又多し

○永代橋　日本橋より十二町辰ノ方　元禄九年始て掛る
橋長百拾間余幅三間一尺五寸　川幅凡百二十間許
元深川大渡しと云舟にて渡りし之
名所記に云此向を深川新田と云とあるせり
紫一本に云呉岸嶋より向嶋へ渡るを三文渡しと云とあり
此橋初てかゝる節請負人有之賃銭武家の外町人百姓一人一銭ツゝ
取之其頃請負人金吹町紀伊国屋吉兵衛亀井町松屋重太郎と云者之
此橋をかられて高く西に富峯北に築波南に箱根東に安房上総限りな
くミへたり眺望よし江府第一の大橋此処は万國廻船是に鉄炮洲
とさしてかゝり深之
此橋より四方をかへりミれは東て遠く安房上総の山を見やり南は品
川池上にくらへ押の方には富士の山乾の方は江城北に筑波山か

○御船番所　永代橋南手新堀川口にあり
往来の船を改む
○御船手組屋鋪
○高尾宮　永代橋西橋詰　かしこにもみちの木を植たり世俗に
此宮は頭痛の願を懸け成就の節櫛笄又簪を画し絵馬を納む是遊女
高尾三股水中に空敷成其髑髏水に漂ひしをあしに埋め塚を築きし
処と云傳ふ然るに其実説は元禄十四正月元日其頃御船手頭大河
内又十郎屋鋪玄関に何ともしれぬ女の首あり人々驚く処大河内
氏云是歳首に人の頭を得る吉兆に武門に於て吉事なと悦ひ是を祭
り女神と唱へ塚に納られ或る傳是を堅牢地神と崇め置けるいつの
頃ゟ何者の云出しけん高尾の事を云ふれたり是時の大に相違せり
世上にケ様の類又多し

○永代橋　日本橋ゟ十二町辰ノ方　元禄九年始て成る
橋長百拾間余幅三間一尺五寸　川幅凡百二十間許
元深川大渡しと云舟にて渡りし也
名所記に云此向を深川新田と云とあるなり
紫一本に云昊岸嶋より向嶋へ渡るを三文渡しと云とあり
此橋初てかゝる節請負人百姓一人一銭つゝ
取之其頃請負人金吹町紀伊国屋吉兵衛亀井町松屋重太郎と云者之
此橋をわたれて高く西に冨峯北に筑波南に箱根東に安房上総限りな
くゝへわたり眺望し江府第一の大橋此処は万国廻船是より鉄炮洲
をさしてかゝり所也
此橋より四方をかへりみれは東は遠く安房上総の山を見やり南は品
川池上をこえ坤の方には冨士の山乾の方は江城北は筑波山な

のどにミく艮の方ハ下総ふ亦續き来ハ海辺の磯近く塩屋の烟り立
のぼり風ふなびくさまハ誠ふすぐれたる美景なり

城東　下

日本橋南　東限大川端通り築地海手　西限呉服橋御堀端
南限土橋新橋御濵　北限日本橋川筋豊海橋

△御高札場　日本橋南詰　御文言略之

此外ハ　常盤橋外　浅草橋内　筋違橋内　半蔵御門外
芝車町　以上六ヶ所

此処廣小路南ノ方通り一丁目是品川通り官道之
西ノ方西河岸町　東ノ方萬町かやそ町通り呉岸嶋　艮ノ方四日市
町同河岸日本橋蔵屋鋪　北ノ方室町一町目神田通り板橋官道之
都合六街なり
此処ふ於て其罪阿る者廣小路ふ仮小屋立て三日の間さらしの上科

小屋せらるゝ之

又死罪火罪の者在之時ハ科の趣板ニあらし其制札建置らるゝ之

此橋をもて諸方道程を定るゝ

日本橋より中橋迄の間をあらんと

○通一町目　日本橋南大通り品川往還

西ハ西河岸町　東ハ元四日市町万町

○木原店　同一丁目東新道と云

此処を木原店と呼来るハ古来町方地割役ニ而用ハ御大工ニ而木原内匠

在勤られしを親類木原勘右衛門と云者へ相渡り夫より同与右衛門と

云へるに跡役へ被　仰付其後ニ右与右衛門正徳中不慎有之家断絶

〇ニ而此木原氏の拝領地ニて爰ニ住せし故俗ニ呼来きりとも右町地割

役ハ夫より今の樽屋三右衛門先祖へ被　仰付右の地面とも拝領致し

ニ而役勤来ると東縁板と云書ニ記しあり

○金蔓稲荷祠　一町目東新道　別当　大鏡院　大龍院

○稲荷新道　同一町目西新道

○鹿兒嶋稲荷祠　同一同新道俗にいなり新道と云
寛永中松平薩摩守殿勧請　別当　圓成院
○疱瘡童子宮　松平右近将監殿勧請
○同二町目大通り　同二町目東新道
○式部小路
寛永九年壬申九月六日久志本式部へ此會所屋鋪下されしと前撰集
にみへたり
○鹿兒嶋稲荷　同所
○元大工町新道　一丁通二町目西中程
○谷房稲荷祠　神主　備後　俗に三竹長谷と云
○同三町目　大通り
明暦大火後日本橋より京橋迄の間八町の内小町屋三ヶ処除会所三
拾間ッゝ廣小路と成火除の為なり此廣小路元禄八頃迄有之今北側
▲新數寄屋町南側檜物町の所へと云
○同四町目　西横町と俗に五輪町と云本名上槇町の内なり
むかし此処に石工多く有しより呼来りと云
四丁目ゟ中橋廣小路にいたる迄あり
○西河岸町　一石橋東西川河岸通り俗に桧木河岸と云
○唐人一官拝領地　通一丁目西北角今に其名目にて有り
考るにいにしへ八官安針などの類ひにてもあるへし
○呉服町　二町有り　呉服橋東の通り
此町堀端に呉服師後藤縫殿助拝領屋鋪住居有り右地面内呉服（くれい）稲荷
勧請
○同新道有り

○元大工町
○同新道あり
○新数寄屋町
○檜物町 ○同会所 ○道寿屋敷 ○三嶋屋鋪 ○上槙町
△中富稲荷ハ上槙町 神主 松本出雲
△阿満稲荷祠 上槙町中通り 別當 宝亀山 峰本院
○北槙町 南側あり
○御油屋桝屋善太郎拝領地 ハ堀端
是より中橋あり右ハ一石橋より中橋迄ハ堀端の方
▲日本橋江戸橋より中橋迄大通りより東ノ方
○元四日市町 日本橋東南
此地ハむかし四日市場村と云四日々々市立し處と云
△封疆藏 日本橋より江戸橋の間川岸通り
明暦大火後日本橋南萬町より四日市迄の町屋を取除高四間小川端北
と請東西二丁半ハ火除のためニ土手藏を築かるる廣小路と成此所ハ小高
輪牛の休場なり宝永中根津権現ハ旅所と成四方町屋建茶屋抔出来
も然迄とも間もなく廢止となる 或云旅所正徳中出来と江戸鹿子ニ云
△翁稲荷祠 四日市廣小路
此土手藏の地ハ町年寄奈良屋喜多村の持之
享保中日本橋詰の所町屋となり此処藏屋鋪と云
安永の始江戸橋町屋と成江戸橋藏屋敷と云木更津河岸と云あり土
手藏出来の節代地霊岸嶋四日市町あり
或ハ云享保六七頃廣小路と成と云支あり其地を可考
国立公文書館 National Archives of Japan

○萬町　日本橋東南四日市南の通り　堅木棒屋多し
○青物町　万町東に続き　海賊橋通り
○音羽町
○平松町　通一二町目東横町
○佐内町　同新道有り
○小松町
○南油町
○川瀬石町　同新道有り
○新右衛門町　同新道有り
○箔屋町　通四丁目東横町　○樽柾町
○岩倉町　○福嶋町
○下槙町　中橋入堀河岸通り是より中橋あり

○本材木町　八町迄有り　江戸橋の方一丁目中橋の方四丁目此町東側川にて西側町屋　新肴場或新場とも云
○中の橋　川瀬石町通より坂本町小濱屋鋪の方へ渡る
○鷹の橋　本材木町四五町目の間に架る
此橋北の詰に練塀少し有りしに明和四亥四月九日の火災に焼亡し今絶是寛文頃に鷹野の時御腰掛られし処と云
古へは本材木町川通りより西へ一丁ツヽ入堀五ヶ所有りし
○中橋　中橋より京橋までの間をさして
日本橋南四丁目あり是より京橋へ四町有り両橋真中なる故にさし
云し也今は橋なし　明暦前橋有りしや橋長廿五間と云　寛永九の図に橋あり
いにしへは此堀の方掘止より本材木町の堀迄つゝき此流きにりあ

し故中橋とハ云しへ正保の頃此堀西の方ハ半分埋られたり
大猷公御代平地と成りて老女に御助成屋鋪下され町屋と成り 此時橋ハ取られしなるへし
同堀東の方安永中まで埋られ松平善甫老拝領地と成 又天明五巳年
頃槙町蔵地の方拝領町屋と成 富槙町と云 廣小路ハ此頃ゟ改て
○中橋廣小路 大通り
内ニ女中方拝領屋敷 竹内元寿老同断 観世左吉同断
山添漸春院同断
○南傳馬町 三町有り大通り
此町ハ慶長十一頃大傳馬町同時に御城内より移ると云
考るに南傳馬町一丁目元名主主計居宅地面の内に千代田稲荷と云
勧請有り是往古舊地千代田村鎮守にて町と同時に此地に移せしを
のあるへし今名主主計ハ跡絶へたれとも稲荷の宮居ハ猶残れり
▲中橋ゟ京橋の間ニ堀端通り
○南槙町 同西会所 富槙町
○桶町 二町有り 同東会所 名継稲荷 槙町別当 光福院
△譲の井 桶町一丁目柳屋長右衛門地の内に有名水なり
此柳屋といふハ呉服町にて年久敷紅粉やにて所々揚抜屋のこらせ柳
屋と名のるハ皆此名をかりたるのと大に繁昌の店ありし後に桶町
に隠居せし其子も住居せし今呉服町に在店 別に余人の出せるにあらす
と云 事跡合考に 江戸砂子に桶町一丁目南側柳屋喜八屋敷に有と云
○南大工町 二丁有り
○南鍛冶町 二丁有り 狩野探牧屋鋪 鍛冶橋御門通り也

○明暦以前ハ桶町鍛冶町の間を長崎町と云し大火後其町を取除廣小路と成今霊岸嶋長崎町也然るを其後其所を町屋と成

同新道

出世稲荷　鍛冶町一丁目　別当　千光院

五郎兵衛町　かぢ町南

畳町

△玉木稲荷　神主　鈴木大隅守

北紺屋町　五郎兵衛町の南　俗ニ大根河岸

▲中橋より京橋大通り東の方

紅葉町

材木町入堀中橋廣小路ニて堀留る此川を云

○中の橋　下槙町中通りより大鋸町中通り小架ル愛相橋と云よし

○越中橋　大鋸町より松平越中守殿前ヘ渡る

○大鋸町　中橋東河岸通り桐板屋ある故桐河岸と云

○正木町

○南鞘町　大通東

○南塗師町　同南大工町通り

▲松川町　二町あり

○鈴木町　鍛冶町通り　○因幡町

○常盤町　二丁あり　○具足町　五郎兵衛町通り

○柳町　本材木町八丁目横町

○炭町　股引仕立名物袷つゝやと云あり

△具足町　角町河岸を俗ニ竹町と云竹屋多し

○本材木町　五町目より同六七八丁目迄東川岸通りへ

○白石紳書に云古へ京橋辺の町名に大坂町住吉町なと在是其處に傾城町ありしを中頃に今の堺町へ移され明暦大火後に今の新吉原へ移されしと此京橋辺より日比谷御門辺迄は入海なりしとあり

▲京橋より新橋迄其間八町之大通りあり
銀座町四町　尾張町弐丁　竹町　出雲町　新橋

○京橋　日本橋より八町南なり橋長十二間欄干擬宝珠あり御堀吐水西紺屋町金六町水谷町堀筋より八丁堀通り鉄炮洲海に落る此川筋に架れるも其外橋には

○比丘尼橋　御堀端河岸に架れ

○中の橋　紺屋町中通りに架れ

○京橋　大通り

○三年橋　京橋東の方竹町より金六町へ架れ

○真福寺橋　本材木町より水谷町へ架れ
むかし真福寺と云寺ありし由いつれの寺なるや今ありしあの下真福寺なるを猶考へし或寛文頃江戸圖に今木挽町の所にしんふく寺木挽町とあり

○戸城橋　本材木町の川にかゝる
水谷町より南八丁堀の方へ架る或牛草橋云よし俗に小牛の屎橋といへり

○弾正橋　同
炭町より北八丁堀へ架る本名とこたしとも云ふ
延宝頃江戸圖にとこもしとあり

此三ヶ所三方にかゝる故是を三ッ橋と云なり

○銀座町　四丁あり一名新両替町とも云今銀座跡町屋となる

二町目ニ銀座ありし（寛政十二頃西家かき町へうつさる） 同横町ニ大黒常是あり

○観世新道　同二町目西通り宝暦末ニ此新道を開く
観世大夫屋敷ある故ニ俗ニ観世新道と云

○一足（カツタリ）稲荷　同鎮守
観世大夫元ハ今の猿楽町ニ宅地ありし由仍之今猿楽町の名残きりと云　観世傳来記ニ云伊賀の服部一黨なり東山殿ニ仕へて観阿弥と云ふ同明なり棠ニ仰せて猿楽を習ハしめ勤しむ其子世阿弥其子音阿弥其子観世三十郎と号して猿楽と成今春ヶ輩と成て諸藝術熟し子孫相続せ

○尾張町　一丁目元地　同新地
同二町目

○竹川町

△出雲町　芝口御門有之頃の古図ニハ此町名なしたき川町と云る迄なり竹川町の支なるべし

○芝口北紺屋町　代地なり　新橋きハ

○同金六町　同
是迄大通り新橋なり

△京橋東角

○京橋与作屋鋪　私ニ四方屋敷又四方店と云

○白魚屋敷　白魚役拝領屋敷なり

△京橋金六町

○同水谷町一丁目

○鶴林（ヨリン）稲荷　水谷町土方七郎右衛門鎮守なり
田鳳云吾ヶ小児の頃ニ覚しかおだ申しと唱ふ

○豊蔵稲荷　別当　明現院

○三十間堀　七町有り　銀座町より出雲町裏河岸通りを私ニ三十間堀何丁目と云

▲京橋西ノ堀端の方

○西紺屋町　比丘尼橋東河岸より西堀端通り河岸をいふ

○南紺屋町　同つゝき河岸京橋の方傍ニ豆売といふ鞘店多し

○弓町

○新肴町　弓町南　内町今弓町中通り新肴町辺を云

○弥左衛門町　新肴町南

○休伯屋敷　柏木申す組の事あり銀座三町目うしろ

○鑓屋町　同つゝき　銀座四丁目うら

▲数寄屋橋御門前

○元数寄屋町　四町有り

○有楽原　すきや橋御門外ニ広小路ニ元すきや町二町目三町目ノ処慶長頃織田有楽屋敷ニ下されしか後明地と成て芝野ニて折々御鷹なと遊されしとく寛永の頃ニや

▲山下御門前

○山下町　山下御門通り南鍋町ニ尾張町へ出る

○塩守稲荷　山下町

○南鍋町　二丁有り

▲山下御門外堀端

○筑波町　○勘左衛門屋敷

○山城町　たくみ町南　○佐兵衛町　山城町下南

○喜左衛門町

○南佐柄木町

○神田稲荷　南佐柄木町

○八官町　加賀町南

元和の頃八官と云唐人に屋敷を下し故に町の名とする

○穀豊稲荷　同町　神主　宇治川若狭

当処の地主十右衛門屋敷の鎮守なり　初午の日加賀町へ假屋立神輿出座

○加賀町

○寄合町　八官町南

○丸屋町

○瀧山町

○惣十郎町　瀧山町南

○山王町　惣十郎町南

○南大坂町　山王町東側

○守山町

○内山町

○今春屋敷　同所　森氏稲荷

猿楽伝来記に云今春は川勝大臣より近代の八郎迄五十一代に及ふ旧家なり八郎父を七郎と云其父を大古夫と云是後の大太夫也自是前代に大太夫と云なり渠に男子数多有り嫡子八郎家を継て後に及連と云二男今春源左衛門是も脇師の家別に立なりし三男大蔵大夫と号る渠は武田信玄の大夫と成り甲州に住せ其子後大久保十兵衛と号後石見守に仕を故有て滅亡せ其伯父大蔵源右衛門大鼓の家と成其弟大蔵弥右衛門狂言師と成及連か子七郎次男金春惣右衛門大鼓の家と成と云云

⊕新橋　大通り出雲町より芝口町へ架る此川筋は

○土橋　幸橋の堀堀留り光屋町より肴店の処へ行此の堀と新シ橋
川筋の堀留く此所迄汐さし入今肴店此辺の地名の様になれり
○波橋　山王町より南へ渡る或難波橋とも云
土橋肴店ハむかしへ此辺日比谷辺海辺之し頃ハ此川つらへかけて其
つきまて猟師ありしかりしとや其遺風残りて今も魚市立と古きも
のまいこへうり
○新橋　大通り
宝永七庚寅九月見附の門建の掛り佐竹壹岐守松平飛騨守田村下総
守の手傳之此時より日比谷町芝口町と改り芝口の門と称を凡十五ケ年間
享保九甲辰正月晦日山下の門加賀町より出火にて焼亡其後再興なし
元の如く新橋許りになる
○汐留橋　木挽町七丁目より芝口町へ架ル
此川是より濵の殿脇より海へ入
○今御高札場　芝口橋際　享保中建らる
御府内往還にて横死の住所知れさる者ハ年頃着服懐中物等委しく
しるし今札にて此所に掛らるなり
○東嶋　茅場町　南北八丁堀　鉄炮洲　灵岸嶋
又将監橋とも云　青物町より坂本町へ架ル
○海賊橋
むかし海賊奉行向井将監屋鋪有し故の名也
向井家元祖ハ向井伊兵衛正勝後伊賀守と云初勢州の人武田信玄
に仕へ天正七年九月十九日討死と云
○坂本町　二丁有り海賊橋通りよりうしろ左右へかけて坂本町也
山王御旅所ハ明暦頃の図にも宮に山王宮居有故に坂本町の名有

○南茅場町　薬師堂の辺より是岸嶋手前迄を云同河岸通り
は裏茅場町と云

○山王御旅所　かやば町　永田馬場山王持
伝へいふかやば町はむかし神田橋外茅場の地よりうつると云
六月十五日山王祭礼之節假屋立

○薬師堂　同所社地　別当医王山　智泉院
本尊恵心僧都作　山王観理院僧正兼帯
医王堂額は　長崎道栄筆

○縁起云当院薬師仏は恵心僧都二十一歳の時彫刻高尾寺へ納め置星
霜をへて相州大場村に安し然るに北条氏の兵火にかゝり堂宇焼亡
尊像のみ流れ行方なし其後寛永九壬申年正月八日ゟ十二日迄霊験の事
有りて領主諏訪部氏へ大場村より此由を訴ふ領主より慈眼大師へ告
て彼像を東叡山へ移し奉る其後当院第二世及見法師へ大師附属し
たまひぬ思ふに及見の寺は祭の日山王遊幸の処にて都城より東に当り
如来済度の地なる事を定めしむなるべし寛永十二乙亥八月八日
新らたに当院に安置し奉り又元鎧島（ガイトウ）山と号せしを尊像安置の後大
師の命によつて医王山と改ると云々

○天満宮　薬師堂境内　山王社家　諸井帯刀持
菅神御真筆聖像と云
当院薬師仏縁日毎月八日十二日　正五九月廿日開帳あり
殊に賑ふ　正七月ゑんま参詣多し

○山王門前　町屋　かやば町の内といへども実は坂本町なり

○十川上水屋鋪　かやば下の内

○植木店　坂本町のよこ町を俗ニ云ハ
○金森稲荷　かやば町　神主　泉数馬
○鎧の渡シ　かやば町より小網町二丁目ニ渡る
往古此辺入江ニして大渡りなりと云源義家奥州下向の頃の故事あり
略之いつきにも此まうしハ古来ゟの渡しなりと云
○鎧ヶ淵　同所　牧野家屋敷の側ニあり
○甲塚　同屋敷内ニありと云
いつきも八幡太郎義家の古跡と言傳ふ
△獺拼子ニ云茅場町と云名ニ始まて昔ハ海辺なりしが今ハ栄へ行き
家作りして山王権現の御旅所と定め薬師菩薩立給ふと云々
△此かやば町の地ハ薬師堂より東昊岸橋手前迄ハ古へ寺多く長久寺真数
寺道蓮寺抔いへる寺あり明暦後より皆いつれ方へ々移あり

又今の組屋鋪の辺元不残寺地也浅草報恩寺二本榎朗惺寺並ニあり
明暦頃迄此二ヶ寺あり其外ハ明暦以前より外へ引て町方より組与力同
心方拝領町屋となる
○八丁堀　海賊橋より松屋橋弾正橋迄つゝく川通りの南ハ材木町
八丁目迄の通りなり
寛永中船通用のため長八丁に堀通されしと云今此川を境ひ東の方
ハ八丁堀といへるを地名の中に呼へり
○南八丁堀あり　北八丁堀あり
○喜多嶋町　北嶋とも九鬼家屋鋪脇坂本町二丁目通り亀嶋迄を又
九鬼家小濱家後ロ四ッ小路許り喜多嶋町と云
○岡崎町　薬師堂うしろ通り地蔵橋の筋本八丁堀迄を云ハ其外横
小路小岡嶋町入組此地名主岡崎氏より

○地蔵橋　国崎町通り入堀ニ架ル
○倫宝小路　俗ニ貧乏小路と云
此外私ニ呼名多し皆其所ニての通用也
○矢場　亀嶋町の方
○亀嶋町　此地寛永の頃ハ川なりし其後築立ニ成
○亀嶋橋　元禄の頃初てかゝると云
○竹嶋町　喜多嶋々是迄両御町与力同心并領地なり
○神田三代地　俗ニ八丁堀の代地と云
松下町一丁目代地　新銀町代地　塗師町代地なり
此地ハ鳥居丹波守殿上ケ地也享保七年右町々代地ニ成
○水谷町　一丁目二丁目入組　○水谷町立跡
○金六町　○金六町立跡

○与作屋敷立跡　亀嶋
○澪杭屋敷　金六町
○阜峯屋敷　北紺屋町　御筆師　安藤阜峯并領屋敷也
○亀屋屋敷
○北紺屋町
○永嶋町　日比谷町つゝき
○日比谷町　永嶋町つゝき
○幸町　本八丁堀四丁目うら
○長沢町　本八丁堀三丁目うしろ
○伊雑太神宮　北八丁堀塗師町代地　神主　出口市之進
当所鎮座ハむかし釈潮音と云者公吏大成経を書此事ニ依て伊雑の
神官罪處せられし事在其願ニ付て社家江府ニ有宮を仮ニ移せしなり

今此処に鎮座なりと云　云毎年六月廿四日より廿六日迄近辺町々幟
挑灯を出し賑ふ此日神事なり

○祭日　毎月六日　十六日　廿一日

○紫雲山通入寺　一向宗東末なり　岡崎町巾組同心吉田氏高木氏間之

○王圓寺　一向宗東末　同大竹氏地面の内之

○南八丁堀一丁目同二丁目同三丁目同五丁目代地

○松屋町　八丁堀河岸通り

○松屋橋　松屋町ゟ本材木町七八町目の間に架る

○松屋町上納地　○本八町堀一丁目上納地

○本八丁堀町　五丁有之一名北八丁堀と云

△弾正橋通り々南河岸伊藤宗印屋敷有りトコヨ橋ともに云

○中ノ橋　同三四丁目間より南八丁堀

○高橋　同五丁目ゟ対岸嶋東湊町へ架る一名湊橋ともに云なし

○稲荷橋　本八丁堀五丁目ゟ南八丁堀五丁目へ架る

○南八町堀町　五丁有り　北八丁堀と川を隔て川の通り廣小路

○稲荷社　稲荷橋南詰　神主　南喜山氏

南八丁堀氏神々是を湊神社と云なり

○古江戸図に此社地八幡の宮有り近年稲荷社地の中に小なりしかり今
小稲荷社と並ひし奥に八幡宮有り

○神前の正一位稲荷大明神の額は　卜部朝臣兼敬郷筆之

○合引橋　南八丁堀の内本多家伊達家側にかゝる

○大富町　牛草橋際新地とも云

天明の頃なるへし本多侯裏門前川端のかゝし側の町屋出来

〇鉄炮洲
寛永の頃井上稲富の両家大筒の町見を試し所く此地金城に遠から
ずとて鎌倉由井か濱にて稽古有りしか其後築立られし故に此名あ
り此地南北凡八丁ありと云

〇本湊町
久志本屋敷　久志本内蔵之允拝領地也

〇舟松町　二町あり　海端の町也　炭問屋多し

〇本阿弥屋敷　同町

〇十軒町　同舟松町つゝき　炭真木材木屋也

〇明石町　同十軒町つゝき築地の方

〇寒さ橋　鉄炮洲より築地に架たり　一名明石橋

〇卜養屋敷　十軒町南の末にあり
半井卜養此処に屋敷拝領の時綴る
卜養は本道とこそ思ひしかうみ地をとるは外料かなる
東都の人医官也牡丹花肖柏孫寛文中連歌狂哥を能す

〇了然禅尼庵室　鉄炮洲の内
紫一本に曰是は東福門院様に宮仕へせし女房女院薨御後尼となり
了然と云五山の僧を師とし禅学をつとめ関東に下り鉄牛に法門を
聞んとせし然れ共容貌美にして寺門を出入を止め又木庵弟子伯翁和
尚に居も其所に在住せん事を望む伯翁云汝をされて美容なり中ゝ
思ひもよらすと追出したり了然ちからなく去り其近き町屋に入て銅器
を火に入焼し物寄るやうにしてかの銅のあかく焼るを顔へおしあ
ておもくを焼筆を取て頌を書せ
昔遊宮裡燒蘭麝　今入禪林燎面皮　四序流行亦如此

不知誰。是筒中移ルコヲ
いある身の捨て置く身のうかりまし淋れのたきしとおもいさうせい

此ノ然尼ハ京師葛山氏の女門院ニ仕へてゆかり木と云しまし後尼と成高田落合恭雪寺主と成中興開基と成泰雪ノ然之總大和尚と云
正位辛卯九月十八日飯寂と云

○霊巖嶋　むかし江戸中嶋と云是旧名之
寛永記ニ云寛永元年昊巖雄誉上人法力を以て江戸八丁堀海上を諸檀那土石を運ひ集て陸地ニ築き一宇を建て霊岸寺と号し是を昊岸嶋と云萬治二年八月三日霊巖寺の処公用の地ともなる云
霊巖上人略縁記ニ此地ニて六町四方の大沼拝領不日ニ築立寺院建立

今昊巖嶋是之と云云
寺地の跡不残町屋と成此嶋の町数十八町有り此内古来より町家也
町其餘ハ皆境内の庭と云云
○松平越州侯の舘舎　昊岸寺建立より已前在し由今以て此処ニ在之
○昊巖橋　かやば町より昊岸嶋へ架ル　東方三四十間程石垣築出る
○霊岸嶋町　草創の町く是も其頃の門前町之
○長崎町　二丁有り　明暦中中橋よりうつせし町之と云
○四日市町　江戸橋土手蔵代地明暦中うつる
○塩町　圓付塩町代地之明暦中土手ニある頃うつる
○濱町　元は浜町堀と成し時の代地之
○南銀町　四丁分　本銀町四丁代地之
○明暦中土手ニある頃うつる新川有り酒問屋多し

○新川

一二三ノ橋　新川々かゝ橋

○随見屋鋪　一ノ橋詰　俗ニ茶碗鉢店と云

川村随見宅の所ニ此老人ハ元禄中諸州の風土を考へ海を築川を堀てありたル田畑を発し其土地を知る事名誉の人ゝと云云

○大神宮　新川　伊勢内宮　慶光院宿地

元禄中伊勢内宮慶光院下向の時

巌命ニて此建立遷宮伊勢と同年

江戸鹿子ニ云寛永中草創とあり

毎年正五九月十六日十七日両日神事あり又六月十六日十七日同断

婦女僕ニ云山本大夫ハ慶光院開山比丘尼の子孫よりて今ニ至て慶光院住持ハ代々山本大夫娘ゝ山本大夫ハ三百石給りて今将軍家御代々御師ニ慶光院格式ハ御門跡並ニて江戸参府の節ハ道中御朱印傳馬ニ而江戸霊巌嶋ニ於て屋敷拝領在て参府の折りゝの旅亭ともなし其地ニ一社を建て伊勢大神宮と号し其外大神宮の社を関東ニてハ神明と称し是伊勢天照皇大神宮と号し是ハ鈞命ニ依てなりと云云

江戸志ニ云明暦の江戸古絵図ニハ今の永上　上覧所辺ニ伊勢上人の屋敷あり今の新川の地ハ此頃地なるニや

○橋本稲荷祠　別当　醫王山　圓覚寺　真言宗 上野末

霊巌嶋惣鎮守　銀座續円覚寺屋鋪

當所ハ往古紀州高野山麓橋本ニ宮居ましく弘法大師の真作ニ大師入唐の砌舟の中ニ於て初て出現あり其後帰朝の頃京東寺建立の折か

ら応現しける処の御姿を海の内よりに移しけるに霊像之然るに此霊
岸嶋を往古中嶋と号せし時神体を此社に移せしより此地の鎮守と
なせり

○本尊薬師如来　同所

三州鳳来寺薬師仏と同木同作理趣仙人彫刻なる処之当所に安置い
当寺先住鳳来寺に移るの時霊夢有り供奉しけるとなり故に山号を
醫王山と称するよし

○恵比須祠　霊岸嶋みなと町　此所を恵比須宮前と云

○稲荷祠　同所　ゑひもおいなりと云

此社はむかし今の向井家屋鋪の所にあり向井将監殿海賊橋より此
処へ屋鋪替の時此社を外へ移さるると云

○引船稲荷　みなと町

○御舟手屋鋪　向井将監組　享和二ヶ向井家御役御免

○舟番所あり

○東湊町　二町あり

○森田藏　霊岸嶋越前守舘舎北隣角と云

○川口町　築地にて藏代地元禄中なる

○霊巖橋際埋立地　俗に蒟蒻嶋と云明和三戌年築出る

○同續請負地と云

○蝦夷地産物會所　同所の内寛政十一建らる

○蝦夷地御手入有り御奉行諸役人相詰米穀其外諸色積被遣交易在て
塩引魚類昆布其外其産物を此処におゐて望の者に御渡有之御用場
なり

○嶋會所　八丈嶋産物乾臭類此処に嶋船着岸して塩物問屋来て入

札を以て引請る事之

○湊橋　新堀にかゝれる霊岸嶋より箱崎に架る

○南新堀町　二丁あり　新堀川南岸の町なり霊岸嶋の内と云

○大川端町　新堀町折廻し海ぎはを云

○石川嶋　本名鎧嶋と云よし離れ嶋なり

○石川氏　大猷公の御時拝領ありしよし先代八左衛門殿と申せし由故ゝ八左衛門殿嶋とも云

○寛政四子年石川氏永田町へ屋鋪替あり跡家作取払に相成る今炭問屋置場と成　人足寄場役所立

○佃島　石川嶋に並びたる離れ嶋　鉄炮洲の内と云百間四方と云

中に入堀ありて二嶋ひとつに皆漁師にて白魚名物とす（鉄炮洲より一丁程離れ海中なり）

（天正の頃）昔攝津國佃の猟師此地拝領を依て佃嶋と号今に　御前の者を上ると云

佃嶋はもと安藤右京進殿屋鋪なり藤を植らるは右京進殿の墓の志るしとて今に安藤家より米を給はる嶋人も又魚をまいらし彼家の抱の猟師なる遠風にて住（住）吉を祀らるは夫より後の事なりとぞ云云

△住吉祠　佃嶋の内　神主　津守日向守藤原好昌

正保中造立

當社藤の名木之　社のかたはらに石碑あり加茂季鷹撰ス爰に略す

古絵図にみな嶋とあり御供の意にや

此嶋は皆漁人にて攝州の者なれば住吉を勧請し鎮守とす

永禄七川上正吉（信に大坂伊兵衛と云者江都に十組問屋と云を定る及宮再興ス）攝州住吉四社を遷さ

谷月やさしき住よしのはくさし出　其角

鐵嶋と佃嶋との間芦のおけしける中に水鶏多し五月の頃夜聞へし

比地猟師并領地深川佃町あり

木挽町　築地

○紀伊國橋　銀座一丁目二丁目の間より東の方木挽町一丁目紀州御藏屋鋪前にかゝれり

○三原橋　同三四丁目間ゟ三十間堀へ渡を又三ゟし橋とも云よし

○木挽橋　同四五丁目間築地門跡の通り

右橋々三十間堀通りに架れり

○元松村町　紀伊國橋向川通りを云に水谷町一丁目二丁目の川を隔て南にあれり

○木挽町　七丁目迄あり　寛永始の図に八丁とあり

寛文の頃江戸図にえんぶくじ木挽町とあり　本挽町八丁目の橋といへり　今は真福寺橋といふ

いつき此辺に此寺有りと覚ゆ　いつしいつきへ寺移りしや

○大根川岸　又川並とも云　同三丁目河岸を云

○氷川屋鋪　同四町目裏通り

赤坂氷川大乗院并領町屋鋪あり

○新屋敷　四丁目

○芝西應寺町代地　四丁目裏

○新馬場　四丁目廣小路　俗に采女ヶ原と云

比地元松平采女正定基の舘有し享保九甲辰正月晦日火災に類焼ありて夫より明地となりて新馬場築しおかれし采女正殿替地糀町三丁目裏に并領有り今に居住　比所家糀町今小川町へうつされしは寛政の頃と覚ゆ

今采女原馬場ハ昔し此馬場ハ享保十二未年六月はしめてきつかる
西應寺町代地町屋此馬場の所へうつし馬場ハ其町家の跡へ引而
田沼侯屋敷前なり今の馬場ハ天明五巳年の頃此地へ引る

○采女の井　元采女原内ニ有り
元松平采女正殿の屋敷の時掘りせしもの也今ハ糀町屋敷に日毎
に鍵を明け又鎖をとく江戸志ニ見ゆ然るに近年此所町内にて預り
せしを如し

○火消屋敷跡　五丁目東裏當時柳生の屋敷之
享保九甲辰正月晦日火災にて類焼有りて火消屋敷の役宅ハ四ツ谷の門
内に移されしにて此節の火消ハ朽木主膳直綱之

○芝居　五丁目　歌舞妓狂言座　森田勘彌
万治三庚子年太郎兵衛と云者願上芝居取立興行を享保廿卯年より
河原崎権之助名代にて相勤寛保四子年に森田勘彌再興寛政二より
休座同年ゟ河原崎仮芝居となる寛政十ゟ森田再興　河原崎と
なる

○芝居舊跡　同六丁目　今町家と成　いにしへ山村長太夫芝居在
り正徳四甲午年三月五日御女中江嶋の仕置一件にて付座元長太夫遠
嶋仰付らる芝居永く断絶ス
此外土佐太夫和泉太夫操芝居有りいつきの頃ゟ是も絶たり結城孫
三郎座

○万年橋　木挽町東の方京極家の前にかゝる
此橋上ハ板にて橋杭ハ石なりよりて万年橋と呼

○矢の橋　采女原ゟ門跡の方へ行所にかゝる

○三の橋

○本願寺橋　門跡前ゟ南小田原町へ渡る

○かるた橋

○堺橋

○備前橋　門跡うしろと云

○仙臺橋　仙臺侯の蔵屋敷前

○江風山月樓　築地稲葉侯別荘の地と云

寛文二壬寅の春海を填ミ翌年秋成る

○西本願寺　築地　京都ゟ輪番

寺傳ニ云元祖上人ゟ十一世顕如上人ハ文禄元年十一月廿四日化ス

○其次准如上人ハ是西本願寺の祖ニて天正の頃故在て東西二派と分る

准如上人ハ寛永七年十一月廿九日ニ化を其次良如上人寛文二年九月七日化ス其次寂如上人なり御入國の砌り當寺ハ浅草橋内横山町

二三丁目南手ミ寺地を給ハり明暦大火後此処ミ移されし之吾妻日記ミ云明暦四年木引町海手赤坂小日向等築地（本ノマヽ）を仰付とあり

明暦四三月朔日ゟ日記ニ云木挽町築地奉行長谷川三左衛門代りとして佐久間宇右衛門仰付られしとあり

此地元小笠原大和加賀ゟ甲斐とあり其処より干潟の海なりし故埋築立しなるへし

或ハ云鉄炮洲海辺を築出し本願寺寺地と成本堂南向海を見渡し東ハ安房上総見へて佳景之人家遠くもなれて物さみしかりし程なく人家建續く此地ハ川口町と云町屋之夫岸嶋へ引かる御堂の地を云

元

塔頭　五十七字

圓正寺　浄光寺　法照寺　法重寺　浄立寺　法光寺

成勝寺　圓光寺　善久寺　西念寺　善照寺　覚證寺
善正寺　安養寺　真光寺　常栄寺　敬覚寺　久宝寺
長泉寺　浄光寺　善林寺　福泉寺　真教寺　浄念寺
正法寺　応善寺　明西寺　延浄寺　妙善寺　光源寺
妙泉寺　正満寺　浄泉寺　正善寺　長安寺　真龍寺
宝林寺　梅岸寺　万福寺　西照寺　万行寺　報身寺
正覚寺　勝林寺　浄徳寺　光西寺　延重寺　源正寺
福林寺　妙覚寺　唯信寺　光徳寺　圓徳寺　称揚寺
高輪山善永寺ト云
善永寺　妙延寺　実相寺

塔中成勝寺俳師不角（ふかく）墓在
満光院法眼釈定月不角居士　宝暦三酉年六月廿一日
辞世　空蝉ハもとの[illegible]なりくりけり

寛政四初冬御堂御再建ニ付紀州和歌山講中より寄進為者三拾二人
同大工八人手明し道具持来り足代なし小建らるめつるし此建方之
御堂間口拾八間奥行二十間也右ハ京都本山阿弥陀堂を建られし事
在とかや
但天明四甲辰十二月廿六日夜鍛冶橋内より出火新橋仙臺侯御屋
敷京橋辺鉄炮洲築地海手迄類火此時西御堂焼亡也　夫々九ヶ年
目寛政四壬子ニ当つて再建成就也

○築地御蔵跡　森川家屋敷の地と云
元両国横山町矢野御蔵元禄十一類焼後門跡東南岸海端へうつさるる旧
名のまゝ矢の蔵と云享保始頃浅草へ引る其跡森川家屋鋪と成
或云明暦大火後江戸遠き諸所廣りし木挽町東海も築地被　仰付
元濱町御材木蔵引るよし河り是矢の御蔵の事なり

又云築地矢の御蔵ハ米沢町より引けしに相違なし 材木蔵ニてハ
有けし此処ニて御米沢風ニて焼けしゆへに享保始頃浅艸御蔵一
ヶ所に移されしと云説有り

○矢野倉稲荷　築地小田原町

○四月初午日隔年祭礼廿ヶ年程以前休ニ成と云

右祭礼出ス町々ハ
南小田原町一丁目　本郷町　上柳原町　南飯田町也なり

右町々渡り夫より西本願寺前通り三ノ橋向武家方前又三ノ橋に戻
り築地武家方小路々備前橋より武家方前通りへもどるなり

○南小田原町　二丁有り　○湯嶋本郷町

○南飯田町　○上柳原町

○浪除稲荷　南小田原町　別當　万位院

○濵御殿　日本橋より廿一丁　新橋より五丁巳ノ方　大手より三十二丁

正保慶安頃江戸古図に新銭座ハ有り其頃ハ皆海なり寛文の頃の図ニ
ハ甲府大守御濵屋敷とれ蜜にふ延宝頃迄なりしん然其後公の地と成
し欲今濵御庭と称せられしより
濵御殿御普請御手傳ハ松平左衛門督有馬玄蕃及松平阿波守三ヶ方に
て二ヶ年に成就と云

○稲荷祠　御濵橋臺に有り　根津神官務之

○一心稲荷祠　別當　心学院　京橋辺

瀬田問荅ニ云濵御殿ハいつ頃出来候哉寛永年中の江戸繪図なと
にハ見へ不申候様ニ覚申候
荅濵御殿地甲府綱重卿御事清陽院様　進られし御下屋敷なり　坪数七万
五千三百八十坪内一万七千五百坪治中の由

凢慶安四卯九月廿四日下屋敷御拝領と云
明暦七月より櫻田御殿立延宝六午九月十四日出逝去
慶安兼而の頃被進候事と被考候寛永の図ニハ無之筈ニ而
綱重卿御誕生正保元年甲申七月廿四日為り

御外廓
御城南　櫻田　ニ元　霞ケ関　永田馬場
同西　麹町　喰違　番町

麻布霞山稲荷社傳ニ云右大將頼朝卿文治五年奥州伊達恭衡退治之時櫻田村五百七十石の地寄附供田のしるし小櫻木數樹植らる故ニ世人櫻田と云しと哉いへりされとも桜田の名ハそれより以前ニありと思はるゝなり

○櫻田　城南

風土記曰櫻田郷公穀四百六十三束三字田号櫻田者以其郷之図及野櫻樹多邑

源順和名鈔曰荏原郡櫻田（佐久良太）

新著聞集ニ云櫻田虎ノ門より愛宕辺迄田地にて畔にハ櫻の木千万本もありし田の中の流を坂櫻川と云し今此源助ぬしその時のしるしとて残りたるとかや（下略）　方長云其頃の古木一本永田馬場本多侯に在之往古桜田神社と云へるを哉今其跡何をか知らぬ或霞山稲荷是櫻田神社なりと云

・國初此辺を櫻田村と云し彼其地を麻布へ移され今の桜田町又百姓町とも云霞山神社ともいふ小辻されし之今愛宕山の地も櫻田村

烏森神祠縁記ニも櫻田村とあり又今の久保町辺ニ堀端の町々も櫻田と云これハ郷内ようつされし故ニ然し此辺をいまもしべく櫻田と云し地なりや

風土記ニハ此地荏原郡とあり今豊嶋郡なり

今櫻田と呼地ハ櫻田御門内外ゟ日比谷ニ門内山下御門幸橋虎の御門久保町よりあたご下のへかけての惣名なり

伊達政宗侯一代居住舊地　今櫻田御用屋敷の處なり

此地ハ元来水の中成りしを政宗侯築立られ此時慈られし故杁木を下にして土を積築し故地震ニてハ家を損しぬる事まてに三度ニ及しとりハ右新井先生説なり其後櫻田御殿と云是ハ甲府大守綱重卿ニ上籍と成る（家宣公御四男長松君正保元甲申御誕生延宝六子九月十四日 文照公御父なり薨清陽院殿と号寿三十五）今の御用屋敷云是なり

武徳編年集成ニ慶長十一年二月八日ハ江府櫻田仙臺中将政宗宅ニ
神君渡御
同二月十九日　台徳公伊達政宗亭ニ渡御浅野彈正加藤嘉明伴食ノリトニ云云

浅井報恩寺旧地

元総州ニ在し此櫻田ニ寺地を給りると云其後八丁堀へ移し明暦後今の地へうつさるよし云う其年月地所志れも

霞ヶ関　今藝州侯と筑州侯の間の坂を云

是當國名高き名所なり往古ハ奥州への往還と云古へハ今の相馬家屋敷迄も海ニつゞきて岸の松生茂りしるよし旧記ニ見ゆ世移り物換り蒼海桑田の変あるき小ありし

● 風土記ニ云荏原郡霞ヶ関日本武尊為蝦夷之備置関ヽ爾来連綿大被置之挙國之勝景而然其遠眺隔雲霞故有霞ヶ関之名云云

● 霞山稲荷社傳ニ云往古此処を霞山と云右大将頼朝公天下を治め諸國ニ守護を置庄園ニ地頭をすへ奥州海道ハ隅田川を限り霞山の麓ニ要害を構へ霞ヶ関と名付江戸太郎重長是をうけ給る往還のよし

● 然きハ星霜凡二千余歳ニ及へり誠ニ武蔵第一の舊跡此ほとりハ古へ京師よりみちのくニ至る往復の地ニして昔ハ今ニ致る土地ニして里の名郡の跡も替り定かならずされとも霞ヶ関の名ハ今もうつこれを古の勝景ハ猶繁花の中ニ残きり今其地を考るに外櫻田御門より西南の方高く赤坂御門内冨士見坂ニて下り又見附外より向へ下ること余程の坂なれハ此地ハ至て高し霞山とも云しなるへし

● 細川玄旨法印東國陳道の記ニ霞山

あまりのや風の上なるうきまこに霞の山もおよかけそ見り

● 或霞ヶ関とハ府中の事ニや近き国ニ隠き冨士見へ出し竟恵宗祇なとの道此記ニありとかや松永貞徳長嘯より使して細川玄旨法印へ便へ聞し事ありたねし

● 一説ニ四谷の辺ともいへり是内藤宿大宗寺の山号ハ霞関山と云へるより此地ともいへり非なり

● 四国雑記ニ云霞ヶ関をこへきてこひゝゝなとといへる所ありと云此戀ゝ窪といへるハ武蔵野新田府中の辺なり

東路の霞の関ニ年越へハ我も都ニうつそ帰らん　道興准后

都まて急く我をハよも止し霞の関そ春を待らん　同しく

● 李吟翁云旋橋を過て霞村と云あり此所霞ヶ関の跡にやその謂ハ篠

社名所方角抄に西の方高く冨士は見へ北東の方川流るとあり其地の形符合せりと云云

今此辺に霞村といへることは近きわたり弥光寺辺をいふよし霞村と云往古此わたりミちのく街道にして此地有し霞の松と云しは後に遊女の松と命せらるゝと云

春くるゝ行衛はいつくと志らねとも空に霞の関やこへけむ　読人不知

続千載集春　前大納言為世

おしくは空に霞の関もりも雲路の人と志るしとゝめし

同　春下　従二位行子

別れ行春の霞は関守も過る月日をとゝめやはせぬ

新拾遺雑上　よみ人志らす

いたつらに名のみとゝめて東路の霞の関も春そくれぬる

夫木　慈鎮和尚

東には霞を関の名にたてゝ春くるゝことを人につくらん

新明題　仙洞御製

関の戸に聞しや空音鳥は鳴くあつまの山は霞ふかゝす

○さゝれ石　右同所黒田家の石垣の内にある大石にてさゝれの如く筋ある石をいふ

○潮見坂　井上侯と筑州侯間の坂をいふ此名をいふよしハ此あたり近き迄海ありしといへはそれゆへかく云来り又今のうちみてされはもるうふ品川沖みゆると云より名付るに猶考ふへし

○陶山(ス)ヶ関 又淡路坂とも云井上侯内藤備後侯間の坂之

○仰松軒遺跡并青葉紅葉

虎の門内内藤家舘舎内にあり

寛永頃此所へ台駕ありしとき其砌 上意にて植させ給ひし處の紅
葉之此舘の大なる規横といふ無し内藤家舘ハ兄宗武功忠臣秡群なる
によりて殊に

大神君思召深く国初以後 御自身御枝を以て此地を賜ふ

内藤右京進義清長男彌次右衛門清長 備後守節

二男甚九衛門 紀伊守家節

李明先生云芝山会稿ニ云

藤ノ京兆公之上第ハ在虎門之右昔

東照君駐(トメテ)駕ヲ以杖ヲ營ニ畫其境ヲ其後

二朝大君皆御輿焉今也喬木参(シエヘリ)天盤岩生(ジ)苔ヲ傍ニ曰仰松軒是其遺址
也

○白糸の瀧 松平藝州侯向屋敷にあり

玉川を水をせき入て常に流るゝ也と云

ちりかゝりしうへしても猶白糸のつきせぬ流れも水のみなかミ

此古歌によりて号と云

○柳の井 朽木家又三浦家屋敷前 或ハ野中の井とも云歟
幸橋内松平甲州侯舘の内なり

○寺澤兵庫頭邸宅旧地

○茱萸(グミノキ)樹坂

丹羽家表門見通し内藤紀伊守殿本多伊勢守殿中屋敷の間九鬼長門
守殿屋敷の前へ出る小坂之むかしハ両側ぐミの木在し故の名之

○櫻ヶ井　井伊家表門下ニ有り渡り九尺許石垣ニて組上釣瓶車三ツ並て有る大井戸之

○柳水　右井伊家舘舎下也堀もとニ有る井伊家の番所の南脇より御堀の水際へ下る坂有り右水際ニ石ニて三尺四方計ニ井の如く成る箱有り蓋を取てみれハ井ニ有らん漸々深サ三尺計り有りて水わき出る處ハいかなる旱魃ニもかはる事なく諸方へ乞求らるゝ名水之水の涌出る勢ひ至て強く何きより水道在て来ると云事もしれ不甚冷水之

○梨の木　井伊家舘裏門の處と云

此伊井家の地ハ往古加藤肥後守清正第宅旧地之

貞雄云清正子息肥後忠廣の代ニ故有りて断絶せし後寛永九壬申年七月十二日當所を喰逢両屋敷共ニ一所ニ井伊掃部頭直孝拝領なり伊井殿其頃迄の上屋鋪常盤橋内今大岡氏の屋鋪なり

○山下御門

○姫ヶ井　本名姫御門とも姫橋とも云よし俗ニ鍋嶋門と云又櫻ヶ井とも山下御門と幸橋之間土手ニ有り此辺屋敷より一年ニ白米一斗ツゝ此井の中へ古来より年々入るといへり常ニ蓋々錠をさして水汲ことなし

○封の井　櫻田の内と云其所不詳

○幸橋御門　御番ハ外様大名衆一二万石ニて勤仕（今ハ一万石以下寄合衆勤仕なり）
一名御成御門と云　山下御門より三丁末ノ方

○新シ橋　幸橋なりし　延宝古図に相生橋と在又仮橋とも云
名勝志ニ云此橋寛文年中四月新規に懸らると有り

○新見随筆云昔しハ新橋芝口御門なり宝永の頃出来享保九年正月晦
日大火の時焼失なりしとく（是ハ新シ橋の事かいかゞ　なりなんなりしの処へ入る）芝の新シ橋の事

○虎御門　御番ハ一万以下寄合勤仕
新シ橋西なりし桜田御門より六丁余末ノ方
紫一本ニ云太田道灌此城より出陣をハ万民共に堅固なるへし千里
行とも無事にて千里を帰ると祝して虎の門と名付るよし又
御入国の時かく鈞命有るともいへるよしを記せり

●江戸志ニ右の説信用なりしきよしを記し又寛永十三年江戸古図に
さんく溜池の辺迄御堀の躰ハ有れとも今の虎御門の処に御門の形チ
さらしに見へもあるを以て按るに寛永十三年より後に出来たりしと見也万
治二乙寅九月一日御日記に外曲輪御門只今迄御番無之ニ付御門番
被　仰付虎御門遠山久太夫一柳主膳被　仰付と云云是を見れハ万
治の頃ハもはや虎御門出来たりしと見ゆ方長云予か蔵する処の正保慶
安頃の図にハ虎ノ御門有之然れハ寛永十三より正保の頃迄の内に
出来せしなり

●虎御門ハ享保十六辛亥四月十五日糀町二丁目横町野一色外記宅ゟ
出火して霞ヶ関辺有りしこの下芝海手迄焼亡せし時虎御門も焼失し
て其後御再興なりし或云虎御門一説に虎の口と云しとぞ是龍の口に
對る物名

山下御門　或人云此辺山王へ行へきさるに此谷所かいいなしく霞ヶ関の
ちかき山なれて其あたりなきは山下の名所なと云云

○永田馬場　馬場に添ひ永田町とも云
大岡家の向に永田辻之丞永田右馬之丞両家あり
按に寛文江戸圖には長門馬場とありて此馬屋此辺にあり
永田氏屋しきも伝十郎殿市十郎殿とて只二軒のミあり然者長
門馬場といへるか本名なるへし

○蠑螺尻　一名鴬谷　三年坂
虎の門ゟ永田町へ出る南の裏通りの曲りくねる故の名之又此処鴬
なくといへり

櫻古樹　永田馬場本多豊後守殿の舘舎内
往古此辺櫻田の古跡を残せしか今此古木一本之本多侯表の座鋪庭
上に有之由古木は枯て其根より枝を生し今に春毎に花咲しとそ

山王神社　永田馬場　神領六百石
武江第一之大社之本社東向
本社近江國志賀郡日吉神宮也
祭神ハ大已貴神大山咋神二座ト記ス後天神七代ヲ祭テ七社トス山
王ノ神号ハ大師三光ヲ拝ノ此神号有リ両部ヨリ大権現ト称ス
○大宮大已貴神○二ノ宮國常立尊神皇産霊尊聖真子ハ吾勝尊八王
子國挟槌尊客人ハ伊弉冊尊十禪師瓊瓊杵尊○三ノ宮惶根尊本宮七
社其所属ノ神十四社都テ二十一社是ヲ日吉神宮ト称せ

別當　観理院僧正　城琳寺　大樹王山ト云
社僧　圓城院　成就院　宝藏院　長命院　福聚院
知光院　宝泉院　無量院　知楽院　常明院
神主　樹下式部
社家　小川織部　千勝主水　千勝釆女　金丸靫負
宮西頼母　正木正膳　諸井帯刀
巫女　左近　伊賀　大内藏　織江
樹下氏先祖氏部成保江州坂本ニ居テ天文十五年十二月足利義晴
公若君御元服ノ吏由緒正敷家筋之
一鳥居　丹羽侯中屋敷側ニ有り
石階五十三段　檻樹　御本社内陳後神水ノ井の本ニ有り
末社

當社祭礼六月十五日隔年江都ニ一ノ大祭礼なり
御旅所　南茅場町
● 當山を星野山と云いへり星野山ハ川越仙波無量寺の山号之故にか
くはぬゑのかきしれ
● 名所記ニ云當社ハ文明中川越より江城へ移し延位中山王城西にう
つし修造承応ノ回禄後今の溜池築山無双の勝地をゑらびて此所
へうつし奉ると云云
（承応元辰ハ慶安五辰年之今地ヘ移ト非之其年回録ノハ不知造営ナルヘシ）
● 江戸砂子云當社ハ武州入間郡川越仙波と云所にあり慈覚大師草創
ありて星野山無量寺と号し天台の霊地として山王を勧請を太田道
灌文明中仙波村星野山の山王を勧請して其地今の紅葉山なと云云
承応三に溜池の上に移されし是今の社地なと云云
吾妻日記ニ云明暦三年九月の条下に山の午山王類火に付て社頭を

溜池の上松平主殿頭忠房屋敷を召上られ其跡ニ御造営ありしと云云
明暦三年酉正月閏板江戸図ニ糀町半蔵御門外今の元山王と称せる
辺ニ宮あり
明暦頃の人大火の時節其趣を委細ニ書留せし覚書在予是を見るニ
大火後所々改りし事とくわしく而其内山王の社赤坂溜池の上松平
主殿頭殿山屋敷社地ニ成
或云明暦四戊戌年万治改元四月十八日御日記ニ曰山王の御社永田馬
場溜池の上へ新規ニ建立ニ付為奉行板倉長太郎横山内記両人被
仰付ト云云
万治二己亥年四月廿二日御日記ニ曰山王旧社の地より当時の社頭
御造営出来ニ付正遷宮有之ト云
但右年号月日の石燈籠楼門入口左右ニ横山氏姓名を記

貝塚の地といへるハ今の半蔵御門南御堀端松平越後守殿御舘続
き今火消屋敷内藤家三宅家処々表門ハ御堀端なり同所坂の上へ
今も元山王町と云ニ小祠残れり是山王の旧地ゝ又永田馬場今の
社地ハ松平主殿頭忠房舘の址之
△今の社地本社左の方観音堂の前ニ石燈籠其銘ニ山王大権現広前奉
台命当社造営為奉行故ニ納此処トあり年号ハ慶安五辰年六月二日
横山内記
今山王末社稲荷祠本社の右ゝ此祠ニ在て鰐口ハ
東照宮関東御入国以前江戸在城せし遠山丹波守直景山王いまだ平
川ニ在し頃奉納せし鰐口ゝ段々山王御社ハ御造営在りて大社ニ成
し故今ハ此末社ニ掛ケしゝ江戸神社多き中ニ此鰐口こそ古器
まれなるべし遠山丹波守ハ北条家ニ属し江戸の城ニ居ル

右鍔口之銘　著渡シ金壹尺按周廻三尺なるへし
敬白奉納山王權現御寶前鍔口大檀那直景願主南仙房　武品豊嶋郡
江戸舘天正十四戊戌十月廿五日作者太田和泉守大工長瀬椎名
武徳編年集成ニ云天正十九　江府山王ニ
台徳公ヨリ祭田四百石御寄附有と云云
古き書ニハ別當サイケウ院神主日吉大膳とあり

△抑當社祭祀ハ　台徳公御代元和元巳卯五月十五日初て山王産土の
町中ハ申ニ不及其外も諸方ゟ出し祢り物ホ巾城内ふかく迄櫻田本
宮ゟ渡し可申由被　仰付各思ひ〳〵の出し練物を渡ち大傳馬町より
太鼓の上ニ小鷄の出しを出ち五十三間の巾多門より上覽有て
上意ニハ諫鼓苔深鳥不驚とゆへ太平の代を祝ふる此出しを以て未
代一番ニ可渡旨　上意ありしゟ今ニ至り左のことしと云云
●名所記ニ云元ハ祭礼毎年なりし中頃より隔年と成といへり其年号
不知
●當時祭礼出ち町々ハ
●大傳馬町●南傳馬町●麹町十三町平川町山元町●山王町南大坂
町九屋町●小舟町堀留町堀江町●桶町●本町四丁分本革屋町金吹
町岩附町品川町同裏河岸北鞘町本両替町駿河町●伊勢町本小田原
町瀬戸物町●室町三丁本船町安針町本三の河岸●本石町四丁●西
河岸町●神田新石町元乗物町新かハや町本銀町四丁●神田鍛冶町
同鍋町●神田連雀町須田町通新石町●鎌倉町三河町●小網町●新

材木町●新乗物町●堺町ふきや町住吉町難波町高砂町●新大坂町通油町●はせ川町冨沢町●銀座四丁●通四丁分こぬく町元大工町●檜物町上槙町●本材木町四丁分●青物町萬町四ヶ市佐内町●大鋸町本材木五六七町目●霊岸嶋長崎町霊岸嶋町東湊町●榑正町新右衛門町南油町川瀬石町小松町音羽町平松町●箔屋町岩倉町下槙町福嶋町●本八丁堀五丁分●本湊町●南紺屋町西紺屋町弓町●竹川町出雲町芝口一丁目西側●新肴町彌左衛門町●具足町水谷町本材木町八丁目柳町●山下町南鍋町●数寄屋町●箱崎町一丁目北新堀町大川端丁南新堀二丁分霊岸嶋四日市丁塩丁●北紺屋町五郎兵衛町●元飯田町●南大工町●常盤町●霊岸嶋銀丁合四十五番町数百四十七町程

出シ数〆五十六番

神輿三座内一ノ宮御供大伝馬町南伝馬町 二ノ宮小舟町堀江町堀留町二丁分 三ノ宮南伝馬町

大伝馬町 法師武者十騎 別当 神主 長柄大名方より出ル

御祭渡御町筋ハ本社ゟ行幸出し祢り物永田馬場辺ゟ祢り出ル本社より北の方三宅家脇より御堀端へ出半蔵御門に入り土手通り上覧所前より竹橋に入り御春屋前御堀端通り大手前ゟ向へ常盤橋御門へ出本町二丁目ゟ十軒店石町三四丁目鉄炮町を廻り大伝馬町横町へ出同一二丁目堀留ゟ小舟町小網町箱崎ヨリ湊橋を越へ霊岸橋南茅場町御旅所に入り夫ゟ帰社道万町通り日本橋通り町筋京橋渡り山下御門に入り御堀端通りゟ櫻田御門向通り永田馬場へ出本社へ入

○山王門前 表門外西側商屋アリ町屋之

○同社地借地

永田馬場丹羽家書院より見れハ山王神社麓の湖水にうつり赤坂今

井の木立眼下に在りて美景之寛文十二年五月下旬弘文院春齋と招
給ふに

夏日應丹羽拾遺之招賦庭前即景

賓筵禮畢到斜陽日吉新宮隔水望二本松堅千里緑森々夏木
一庭鶯

白石紳書云麹町ハ江戸御打入の時に開けしとて山王祭にも第一
に十二町の笠ほこを出さく又赤坂にも傳馬町有り是と思ふに最初
江戸の町ハ上方よりしてハ京橋の辺より河ゝこまて赤坂へかゝり
城下へ入しゟ御入國後に麹町門られし成へし
同書に云伊賀者ゟ出し書付をミるに寛永の初迄赤坂辺麹町の辺ハ
伊賀者の知行所の田地なるを他所へ引移されたる地を開かれて其
地を今の安藝守屋鋪なるその臺と成り夫より堀をほり廻されしと云
なり

城西

○麹町　糀と書ハ俗字なりとぞ
半蔵御門外十三町在甲州往還大通りにて今十町迄有て内四谷御門外
小三町あり外堀出来の頃引けし由是寛永十三年の頃なれハ猶可考

○貝塚　半蔵御門外惣名のやうにいへり然るに本名ハ平川三丁目裏
通りと専らとなせしといふ或ハ甲斐塚とて古へ甲州道の一里塚ありし故
の名ともいふ又貝塚法印といふ者の塚あるゆへとも其来歴分明ならん
麹町ハ元小路町とて番町の内續にて武士地也寛文頃迄半蔵御門を
小路町口と云札の辻なれと云寛文古図にも左の通り也元禄頃迄の
図ハ麹町御門と在りいつの頃よりか半蔵御門と呼来りしや知らし
國初服部半蔵屋鋪在しといへハ古記名なるなれ江戸志に云貝塚と云
事赤坂一ッ木鮫ヶ橋なとを云　上古ハ大久保四丁町辺梅の木市谷麹
町五丁目辺迄を貝塚と云南の方ハ西の窪葺手町辺貝塚の内なりとぞ

○或云貝塚麹町四丁目南の方芝音松寺の古跡ハ今の馬場より南まて
至て大寺なりしとぞ

又云貝塚と云ハ今王出氏屋鋪ハ其跡あり石碑もあり平氏女と計り
其外ミへを今八幡ニ崇むと云

△今の芝増上寺元光明寺とて貝塚臺にありしと云しハ至徳二乙丑年開
基開山ハ西誉上人聖聰元真言宗にて傳通院開山了誉三日月上人の弟
子と成浄土宗となる其地ハ堀端越後中將光長卿の舘と成其後数多の
小屋と成る又ハ今の平川天神の前と元山王との間なりともいふ
或云ハ堀端今ハ増上寺持分の処少し斗り四五尺ニ八九間の細長き
処ありといふ又喰違土橋内辺ハ大樓あり此木陰も持分成りと云

△麹町古書ニ云江戸御打入の後ニ開かれしところ也又古図を考ふる
に元は武士屋鋪多く町屋は少々ありかゝり在し之

○摂稲荷　麹町五町目紀陽公御舘向

○村高山長福寺栖岸院　浄土　知恩末　麹町八町目
開山は如誉直入上人開基安藤對馬守重信
往古三州にありて長福寺と云　御入國以後　台命に依て改宗
し當所に移りさせられし時安藤氏開基と云山内火防観音唐佛頼朝寺本
尊前立楠正成守本尊　鎮守冨田稲荷

○石雲山常仙寺　禅宗洞家　四谷竜昌寺末　麹町九丁目
開山禅岩和尚　虎薬師　行基作　慶長七寅年建立

○常栄山天性院心法寺　浄土　知恩院末　麹町十町目
開山は然翁照山上人崇公和尚　寺中　貞松院 最勝院
本尊千手観音閻浮檀金立像一寸八分秦川勝守尊地蔵尊
境内ニ聖徳太子閻魔　弘法大師作辨財天　往古當寺境内至て廣く
今の市谷に及びしとありまり広く願て地を上し所後に屋敷々々に
下されしとあり　本堂前に至て古松あり
當寺鐘の銘に
　延寳四龍集丙辰天夷則三日
武州豊嶋郡江戸市谷荘山野手常栄山天性院心法寺住世廣蓮社
寂誉上人心了路哲大和尚代　下畧

○善國寺坂　善國寺谷
麹町八丁目　元善国寺と云寺あり寛政四戌の類焼より牛込神楽坂へ
うつさるゝ其跡火除地と成　深津十三郎屋間の坂ゟ表二番町へ通りし

○麹町裏谷町 番町の方北あり三丁目四丁目八丁目谷町有り
同一丁目ゟ七町目迄北裏明地ハ享保十二年年類焼の後火除として
明地と成る 又寛政四子年類焼後御堀端より有来り明地うしろ
明地と成此辺り屋鋪外へ引ける
○元山王 三宅備後侯邸宅之坂ニ小祠在り
○元山王谷町 山王社の旧地あり
○元山王三軒屋町 此所屋敷町の中小商家三軒有り
○神保小路 三軒屋より東へ出る小路神保氏屋鋪有故あり
○駒井小路 三軒屋より赤坂に出る小路を云
○越後屋鋪 御堀端火消屋鋪内藤家屋敷の処あり
○元越後守光長卿御屋鋪跡あり
松平従三位中将光長卿 越前家正統之家督

○冨士見坂 赤坂御門内出羽侯屋敷前坂を云
○玉川の瀧 同所雲州侯御舘舎の内水上ハ玉川より流き此末溜池
へ落る
○新左衛門稲荷 同所
○清水谷 紀州御上舘と井伊中舘の辺麹町八丁目清水 紀伊家御
舘内小河りと云
○清水坂 尾品公御門前の坂を云
○柳の井 清水坂下 麹町八丁目へ出ル坂下ハ清水谷之比坂東
南小中古提女有り吉原へ引うると云
○柳橋 麹町七町目の石橋と云
○赤坂御門 此御門外を赤坂と云 青山渋谷の通りえ
此御門のかまへハ北斗形の縄張まて江城第一の御門と云

赤坂ハ往古大澤の莊といへるか古名之赤坂と云ゟ後の事なるへし

○平川町　三丁あり　古ハ平川口に在しを慶長中　御本丸西丸北ノ丸三ノ丸吹上と天下御繁昌ニ付御郭内擴の時今の麹町にうつさる　同時に天神宮居も爰にうつされ旧名のまゝ平川といふよし天神縁記ニ見ゆ

方長云武徳編年集成ニ慶長十一年江城内經営の事を志るせり此時なるへし

此前通り火除明地ハ享保十二午年類焼後と云

○隼町　國初に内鷹匠へ賜所なりといふ

○山本町

△平川菅神宮社傳ニ云城内守護として城隅艮鬼門に當りて平川口梅林坂上ニ勧請慶長中今の地藥師并八幡宮の小祠在る処へ移させ天満宮八幡宮御城に向はせ社頭に勧請文明より享和の今迄凡三百有余歳に當て享和二戌二月菅廟九百五十年に相當仍て開扉あり神像ハ自作の由にて神体五本骨の事なり然るに此時三月　日夜糀町三丁目より出火して同二丁目隼町辺類焼ニ付延引四月朔日より初る

○平川天神社　麹町三丁目南裏　徳葉院

祭神　北野同社菅神　別當　長松山　龍眼寺　天台宗上野末

當社ハ人皇百四代後土御門天皇文明十戊戌六月廿五日太田道灌江城鎮護として當国川越三吉野天神宮を内城内梅林の傍に社を建勧請ありて然るに天正十八年御當家御営内と成平川口外に堀端へ移されしを慶長中江城御造営郭内に擴けの時今の麹町へ遷され舊名を其侭に平川天神と称し奉る永享記ニ神体五本骨扇の事あれとも今たしかならん

爰もまた同し宮居に初雁のゑのし額も貝塚の里　房行

毎年二月廿五日菅家御親筆御影かゝく

○平川町龍眼寺門前　平川天神別當なり

△新安手箇ニ云文明中太田道灌江戸城築之時平川口之内菅神社上棟文ニ文明十戊戌年六月廿五日と有之よしいへり

馬場　麹町三四町目裏明地　享保十三申年十一月築るよし

○湯嶋亀有町代地　寛政十一聖堂御再建ニ付亀有町を取除られ代地此辺に出るなり

○平川町一丁目同三丁目前通り明地天神門前町是ハ享保十二類焼の上火除地となる　内平川町代地ハ柳原和泉橋向になり

加藤清正古跡　麹町　南ノ方喰違内

今井伊家中舘之　事跡合考ニ云井伊家中屋敷四谷喰違木戸内屋敷加藤氏造作のまゝにて凡二百年来にかはらし類焼なし此地表門冠木に三尺余黄金にて虎の形を置然るに此紋金物朝日に輝き品川沖臭猟なしとて漁人患るなけき故に彼紋を放されぬと云此屋鋪先玄関ハ落椽板にてありし九平石を敷結是に踏段より直馬を乗るへきまゝふかよの軍用なりしとそ又玄関上使者の間といふへき処四方障子古風に腰高く惣躰外方鋲の筋金を入外へ一本つゝに鋲の框を仕込是其障子立るところなりて其中に居る者さやかに出る事なしさする用意なり　時なる哉寛政四子年七月廿一日渋谷笄橋より出火して此舘舎類焼せし同時に麹町十丁目心法寺も古来の普請なりしよし同し頃一時の煙となるなかしむへし

○紀伊公上舘　麹町五町目通り

元中舘なりし　明暦大火後御城辺より移されしなり

○土橋　喰違土手木戸在しより俗ニ喰違と云清水坂ゟ紀州の中舘へ行処なり

○四谷御門　麹町十丁目に在り此の門外を四谷と云十一十二十三町目ハ御門外四ツ谷に有り是ハ御堀出来の節今の地に代ると云

○番町　竪十町余（巳ゟ亥に至ル）　横六七町（巳ゟ亥に至ル）

一説に東西十六町　南北七八町

四谷の門市谷の門牛込の門の間御外曲輪内と云

一番町より六番町迄表裏入組此裏の旗本衆の屋敷なり御書院番の小性組大の番に十人組の徒是を五番と云より五番町と云此地古名不知の創業最初に旗元に身衆屋敷に下し給ると云其頃迄ハ大番衆拝領せし故依て番町と云より

・舊事落話云一番町より六番町迄名有る事ハ元和寛永の頃大の番衆の屋敷を此所にて給ふ此時一番組より六番組迄有りし故此名有り其後表裏新道なとの小路多く別れありとなり

・又説に其屋鋪の形偏に四方碁盤の目の如くなりとて盤町とも云

・又御旗元の番の武士を御城西の方に置れし町割を賽の目を用ひられし番町とせられしその二ハ慶長の御下知より二四六の偶目ハ陰なる故に裏町とられ奇目ハ陽なる故其町一町ツゝなりと云

或ハ番町ハ小路多く屋敷等にくき所なり表裏何番町といいへとも必其表裏隣りもあらん心法寺有より境内広く願ひて地を上し所後諸屋鋪に下されしなり麹町八丁目ゟ十一丁目六番町喰違辺ハ御入国以来火災なし井伊中屋鋪に世に千畳敷と云との有り

加藤清正の建られしやう成と心法寺といふよし鈍のなかりし時の
作ゝ然るに寛政四子年七月渋谷より出火して麹町ゟ番町迄類焼
其右類焼後御堀通り火除地と成

○地獄谷　一ニ鈴振谷とも　裏二番町と五番町間の虫坂なり

○法眼坂　表六番町杉浦五郎左衛門殿屋鋪前
或表二番町より表六番町へ谷をこへ行両坂を云
紫一本ニ云斎藤法眼の屋鋪有るよりの名なりしと云説可然と江戸
志ニ云宅間法眼といふ誤のよし

○御厩谷　一番町通り表六番町裏通りを云昔此辺ニ御厩有りし故
の名なり　水野出羽守殿寛政五年龍の口ゟ此辺へ御屋鋪替る

○三年坂　裏六番町久留善四郎殿屋鋪前なり
実ハ三念寺坂なり此辺今本郷三念寺有りしなりしと云
南向茶話ニ云寛永十三外郭出来の時開かる故ニ三年坂の名有とに

○願正寺谷　地獄谷の南ツゝき長谷川久三郎殿北の屋鋪下の通り
ありむかし此処ニ東護山願正寺と云浄土真宗の寺有りし故の名之
此寺今ハ原町ニ引うつり

○鍋割坂　一番町堀端阿部家と布施家との間ノ新道一番町へ上ル坂

○切通帯坂　表六番町より市谷御門へ出る坂なり

○底志らん　六番町末佐野家屋鋪ニ有り
井戸の如くて水なし其深き変もかりしらし

○馬場　裏四番町明地　前々より有り　三番町明地近来出来

○行人坂　花やしきの際北向

○花屋敷　裏六番町表二番町の間表一番町秋田氏のやしきを云

○蛙ヶ原　三番町火除の原

○むかし池ありて井手の蛙を放せしより号るなし

○按に河津氏の宅地ありて後に明地と成りたるへし

○皿屋鋪　麹町三軒屋

耳底記云慶長頃吉田大膳亮と云人の屋鋪なりし跡二千五百坪の処を御用地に上る其辺を吉田屋敷と云しに寛文中青山氏拝領ありて其後故ありて青山氏も断絶せり其時の事なるよしを記せり

○按に江戸砂子に牛込御門内とあるは非也麹町三軒屋にて元八木氏の屋敷之後に吉田屋敷と云後に青山將監と云人の屋敷となれり

○市谷御門　三番町通り　大手ゟ

○市谷八幡旧社地　見附北角山本氏屋敷隅大木榎在此処也と云

寛永中今の社地へ遷座なと云

△番町

表一番町は　御堀端うしろ通り

同裏　田安外馬場通りより前田家後を麹町へ出る土手之

表二番町　麹町十丁目心法寺脇通り

裏同　一番町堀端前田家屋敷脇を直ゝ行通り右側之左りは表五番町なり

裏二番町の脇御堀そへ出る処を袋二番町と云

表三番町　田安御門ゟ市谷御門大通り

裏同

表四番町　田安ゟ市谷への通り三番町通りの北地通り之

裏同　土手四番町の南之馬場通り

表五番町　麹町二丁目横通りゟ三丁目後へかけて云

裏　麹町松平筑後守屋うしろ通り

表六番町　御堀端堀田家脇通り

裏同　市谷御門際土手三番町東南之

土手三番町　市谷御門内南四谷へ出る土手通り

同　四番町　牛込御門内土手ゟ市谷へ出る通り

追加

落穂集ニ云番町ハ御創業の砌御旗本方小身の輩地形なとの労なきを見とて内藤金左衛門天野清兵衛両人へ被　仰付御城西北ニて地面被下岡の土を引ならして谷を埋メ程なく平地と成則大番組拝領其比頃迄ハ外ニ御番ハなく大御番組ばかりなりしニて番町と号せ

まし

城北

田安元飯田町辺

古繪図ニ云田安御門を飯田町口と有りいにしへハ牛込御門内番町の辺迄を田安と云しヵ

○元飯田町

求凉雑記云往古ハ千代田村と云て田安ニ續く田畑之　御入國の時初て田安辺へ御成の時此所の里民を召させられしに其砌ハ民家十七軒ありてあく皆々田畑へ出て只飯田喜兵衛といふ者一人罷出て所の巨細とも申上られハ此以来此名主たるへきよし又此処を飯田町と呼べしと　命せられし由

元禄頃迄皆武士地なり今の九段下少々町屋有り同十年火災の後當処町屋と成

此地の代地築地南飯田町なり

○飯田坂　今中坂と云

むかし飯田喜兵衛住けるより所の名となれ

○世継稲荷　飯田町坂中　神主　吉川式部

當社此地鎮座久しく此古跡なり往古耕作の地成りし時文安の頃より山の腰小社を崇め麓ハ沼有りまこもヶ渕と云東の流を江戸川筋と云し社の廻り畑野六十歩の地此宮の境内成りし太田道灌江城草創の初より此辺を田安と云ハ當社稲荷の神号を採とれ其後御入國の折りしハ神木橙の木なるを以て世継の宮と　上意有りしより此号起れりと云

或云文安中草創元松平近鎮（チカシゲ）屋鋪内に有り元禄十火災の後當所町屋と成其翌年宮居建立となる云

○九段坂　御堀端　御用屋鋪長屋九段に建し故是を九段長屋
と云
坂上の角御用屋鋪寛政四子年類焼ゟ火除明地となる
○人参畠　田安外近年朝鮮種人参を植させらる寛政の初メ一ッ橋殿
新御殿建られし処寛政四子八月類焼より跡火除地と成る
○田安臺
此地至て高し七月廿六日夜男女月の出し時に竜燈ありとて是を
拝せんと甚群をなせ
○富士見通り　人参畠北の通り
○梣(モチノキ)坂　飯田坂なりし　田安御門より北鷹匠町へ下ル坂
いにしへ年ふりたるもちの木ありし故名ともと云左にありし此坂
の傍に名のしれさる久しき常盤木あり脇目にはもちの木と見まか
へり此樹ハいつの頃ゟ火災に焼たふれしも枝葉ありしとなん
今ハ磯野氏屋鋪内にありて其記彼家に正しくしるし有となん
南向茶話ニ云もちの木坂ハ坂上中程青山七右衛門屋鋪裏に大木あ
り是を云といへり
○柳の井　もちの木酒井家屋鋪にあり
○錦の森　同所屋敷の森を云
○二合半坂　もちの木坂なりし北の方戸田肥前守殿屋鋪下通り
○蜻(コウロキ)橋　飯田町北通り堀留より小川町へ渡る石橋辻番うしろ
○俎板橋　飯田町小渡ゟ竹本氏赤井氏の間北の方辻番前小溝にか
ゝる石橋
○大橋　九段坂下通り飯田川へかゝり流俗に是を俎板ちしと云
○飯田川　飯田町下雉子橋の方より入堀

むかし神田川堀しときハ前ゟ江戸川さして流ると云

○田安稲荷　牛込御門土手小出　築土別當持

○田安明神舊地　此地小鎮座ハ文明十年六月五日と云
牛込御門内米倉家屋鋪の表是神木の榎とて有し今若木を植てある
しとそ
元和の頃田安明神を今の迸込築土八幡の地へ移され築土明神と云
是田安明神ゝ夫故今以ゝ飯田町ハ築土明神の氏子とそ

○牛込御門
新見随筆ニ云昔ハ牛込の惣堀なし四番町ニて長坂血鑓九郎屋須田
久左衛門屋ならひの並ひ屋鋪と番町方と申牛込方小栗半右衛門屋間
宮七郎兵衛屋都筑又右衛門屋林並ひ牛込方と申ひ其間の道巾百間
小なかりし故牛込と四番町の間殊の外廣く草茂りしとそ其後牛込
御門と市谷御門出来今の通りと云ゝ
南向茶話ニ田安の地國初の頃ハ田畑ニて其武家ハ牛込寺町今の白
銀町辺へ移されしとそ
武位偏年集成云慶長十二年十一月丹羽五郎左衛門江府飯田町臺の
宅より出火と云云

○臺所町　田安ゟ五町程子セノ方

○小留守居町　田安より五丁程戌の方

○富士見坂　水道橋上石丸氏表門前を云

○小栗坂　水道橋の方ゟ小川町より上る坂

此処御鷹匠小栗家屋鋪ありし故名とス

○稲荷小路　三崎稲荷の通りを云

○三崎稲荷祠　小川町水道橋西土手にあり　神主　和田氏

神體　倉稲魂命　左大土命　左大市姫命　三座相殿　往古三崎村方八丁鎮守と云

社傳ニ云上古の勧請なれハ其記詳ならす近くハ足利義晴公治世天文七年戌二月北条氏綱江戸千代田居城の砌社頭造営あり其後天文十九戌年三月十日三崎村郷士和田太左衛門と云者告を蒙り一ッの玉を堀渇城主氏康へ奉献同廿一年二月則當社に納め給ひ然るに夫より當御代々至り江戸千代田御居城ニ被為遊

江戸志ニ神田川堀割ノ事寛永十三とあるのハ外曲輪出来たる事ありし普請候ゆへ千住ニて御茶水堀割なされハ万治なり

此処三崎村とて田畑芽野成りしに寛永中武家屋宅に領下したまふ當社境内多く御用地に相成宮建の辺り三百五十余坪除地に残し下されしハ其時寛永十八辛巳三崎村を改め鷹匠町と号ス其後万治二己亥年松平陸奥守鈞命を奉しけれハ東ハ柳原西ハ牛込の辺り迄に外曲輪に堀割并に堤に普請ありし此時社も元の地跡に堤の上に遷しありけりに堤守護の為として大守の本社修営給ひて正宗の太刀一腰白銀等奉納しけれハ其後元禄七戌年鷹匠町と又改小川町と号ス是三崎村旧跡なり當社縁記ノ文を省略して志るしぬ

末社　金山彦宮　祭神金山彦大巳貴命二座　元和二丙辰八月祭ル処

同　尾落大明神　同白狐社

當社ゟ毎年二月初午神應湯と云疱瘡の神薬を施し又當社ニ七夜持

と云事有り

○鷹匠町　松平豊後守殿前より小石川御門手前迄を云

○袖摺橋　松平讃州侯屋敷南の方下水石橋を云

相伝云往古ハ市谷長円寺の池水牛込御門の通りより飯田町堀留の堀
につゞきて水落ありけるを神田川堀わりの時堀ハ埋て飯田川にて
止む其時の堀に残りし橋なりとぞ

○小石川御門　此御門外に小石川あり
或ハ此御門を永楽御門と云よし
此御門出来せしも明暦以来の事之其後永楽銭引替のさうし見所なり
し

○水道橋　外郭堀に架たる上水大樋有故に名とせりしハ此川上江
戸川の流飯田町の下ゟ流けるとなり其川の名残入り堀と成て今に
有り万治中松平陸奥侯鈞命にて御茶の水を掘られ浅草川へ落る是
を神田川と云是三年の内昼夜人足普請止む事なし
此橋元吉祥寺橋と云しハ古へ吉祥寺ハ今の小川町松平紀伊守殿
屋敷辺に有しを　御入国後水道橋の外今の石川家松平家石丸
家等の所にうつされ明暦三の大火迄此所に有りし焼亡の後駒込
に移さる寛文の末迄吉祥寺橋と云しを延宝の初め頃より水道橋と
云ふる事と江戸志に古絵図を引ていへり
今の神田川ハ流れを古ハ江戸川竜慶橋の筋川南へ流れて平川に落合
しを駿河流今の駿河台の地へ引移せし時に至り水戸殿前の堀を浅草
へ堀つゞけ其土を以て大堤を築内外の濠出来て駿河台の地ならしつゞけ
られ其後又松平陸奥守殿へ命せられ其堀を深く掘らせられしと

云然れハ神田川に茶の水堀割といへるハ後の事にて其以前ハ川筋
なかりしとぞ

○小川町
むかしハ此辺三崎村とて田畑茅野となり寛永中武家の第宅に被下
畔道を直し小路となしける故其道筋曲りて屋敷の形ちづゝなりと
紫一本にもしるし又此処を錦の功とも云よし
同十八年頃に鷹匠町と改らる元禄七甲戌年又小川町と改る
江戸志に元禄六癸酉年五月十二日御日記に云餌差相止候に付餌差
町を向後富坂町と可相改旨亦鷹匠町を向後小川町と可相改与被
仰出となり

○小川の清水　小川町内藤家宅地になりと云
此清水ゆへに小川町の名有るとも云又是を神田の淵とも云よし関
東古戦禄に云富士見櫓良に當て小き池あり道灌なる時眺望して
むさしの小川の清水たえすして岸の根芹を洗ひこそすれ
地にうつると云

○浅草新寺町浄念寺　此寺小川町辺に有りしを寛永十二の頃今の

○善神王宮　小川町松平長門守殿屋鋪内善神王宮と云宮を勧請なり何神を祠るや不知八月朔日祭礼のよし猶可尋

○猿楽町　裏表なり
白石先生紳書巻六に云慶長初の年ところ猿楽町と云ハ観世大夫屋
敷なりしを此頃駿河臺の地にしけしよし水戸殿前の堀と浅草川へ

堀つゝけ其土を以て大堤を築られ内外の隔出来こゝを駿河臺と
号其後ニ仙臺侯に命せられ其堀深くせらる觀世屋敷も外へ引其跡
小屋敷割渡し猿樂町の名残きりと云云

○護持院原　神田橋一ッ橋之外芝間明地と一圓に今護持院原と云り

○護持院舊地　今細川家屋敷の西の原之是を一番原と云しなり
天和貞享頃迄ハ小屋鋪なり元禄元年ニ用地となりて護持院に給り
元知足院と云享保二酉年正月廿二日火災に焼亡して大塚青柳町護
國寺つゝきへ移され長く火除明地と成今此つゝきの原をたしかへ
て護持院原といへり

○二番原　貞享頃ハ土屋甲斐守殿三浦豊後守殿屋敷なり後召上られ
元禄中より明地と成り明和中松平采女正殿へ被下亦明和九辰二月廿
九日火災に焼亡ありて後明地となる

○三番原　天和頃迄ハ酒井伊与守殿松平備前守殿屋敷之貞享の頃ゟ
明地となる
一番原の東の方少し空地あり天和中ハ中山勘ヶ由殿加藤伊織殿彦
坂壹岐守殿等屋敷是も元禄頃より明地と成る
今細川家屋敷と成ル

○馬場　一番原の内にあり

○神田　　城良　南限白銀町堀橋本町　北限筋違橋昌平橋神田川　此中ヲ神田ト云

往古一国ニ一所神田有て其歳の初穂を伊勢二宮へ献奉ル旧例之
風土記或韓田　公穀六百七十二束三字田　假粟三百八十三九三字田　貢　虫喰不見
今絶て此義無之
然ルニ當地芝崎村ヲ以テ神献の神田トス丹波神田(アラタ)武州足立郡神田
村皆此類之故神田大明神ト移称を
神田の地ハ往古より天正近曠野成りしとそ
今神田ト云る地神田橋外世寅の方三河町ゟ小川町駿河臺柳原を
限り鎌倉河岸ゟ神田堀と限ての惣名あり
但柳原外と向神田或ハ外神田と云

○三河町　神田橋御門外

御入國の後三河の町人ニ給ハると云然し明暦三の繪図よハ新小田
原町とあり
又云ハ創草の頃ハ此町と通り筋のミ町にて其外ハ武士地寺院田畑
之と云今の田町の辺も田畑にてハ鷹野ありしと云或惣テ田町と云所
えハ田畑之と云今田町と書古図よハめつらし町とあり
今の三河町辺ハ浅草ヨり店法粮寺ありて慶安中ニ今の地ニ移ると
云えりし寛永中図ニハなくて慶長ハ
三河町四丁あり但三四丁目裏町あり片側武士地
或ハ云え此地ニ三ツの小流れありし故三川町と云しといへり
同一町目ハ堀端養安院屋鋪と云　官醫曲直瀬養安院拝領地なり
御宿(ミシュク)稲荷　三河町二丁目水戸緋屋屋敷の鎮守之　御入國のいま
き有るよし今三宿と書　神主　甫喜山氏

○四軒町　三河町よこ町片側武士屋敷
むかしハ戊丹後殿前と云よし

○鎌倉町　同所堀端通り俗にかまくら河岸と云
むかし女郎屋四五軒有りし又小芝居なとも有りしと云寛政十一未年
正月廿九日三河町より出火鎌倉河岸松下町竜閑橋迄やける此秋鎌倉
河岸うしろ火除明地の方へくり下けられ河岸通り道もく廣く相成

○鎌倉横町　鎌倉河岸裏通　代地松下町三丁目　松下町三丁目
松下町二丁目代地　同三丁目代地

○龍閑橋　神田堀口ニ架ル　本銀町より龍閑町へこへる

○戸崎稲荷　龍閑町　神主　鳥海兵部

○神田堀　鎌倉町より濱町へ流れける
明暦大火後火除土手を築ける本銀町の処ニ委し天和三堀ハ出来本
銀町より塩町亀井町迄都合八丁の間なり今川橋ハ此時かゝル

○竜閑町　此堀端鎌倉町につゝく

○松下町　永冨町一二丁目代地有り

○大和町　松下町三丁大和町此町ハ半分元明地と成其代地南柳原
ニ有り

○松下町　三町南北代地緋屋町三丁目裏通りニ有り　柳原内冨田
前下谷岩城屋上ケ地にも有り

○龍閑町元地　上納地
本銀町四軒屋敷銀町一丁目北川向

○永冨町　四町　俗ニ土物店と云　同三丁目立跡ニ元乗物町代地　新革屋町代地

元佐竹戻此地ニ舘舎あり天和の頃下谷へ代り其跡永冨町となる
松下町の处を佐竹殿前と云表門通りなれハなり

○出乳母稲荷　永冨町　別當　壽命院

○不動尊　同　別當　東朝院

○同所廿七日を縁日とす

○皆川町　三町

○横大工町

○松下町代地其外ニあらく横町新草屋町元栄物町いつきを代地入組
なり

○蝋燭町

○関口町　此二町入組三川町二三丁目横丁なり

○新銀町　関口町蝋燭町の東

○雉子町　片側町なり

○新草屋町元地　兵庫屋敷あり
元地ハ廣小路と成今の处ハ代地なり

○川井新石町　二町あり　野嶋やしき

○多町　二丁あり
古図古武鑑杯ニめつらしく町とあり

○此地より連雀町へかけて青物問屋毎日市あり

○白壁町　上下あり合て一丁なり

○竪大工町

○姥ヶ井　竪大工町　名水之元ニ水屋鋪ニ有りし井なり

○連雀町　須田町西青物問屋毎日市立

○亀ヶ井　連雀町金田家屋鋪内ニあり　むかしハ此茶の水ニなりて

さくひなき名水なりとぞ

○佐柄木町　多町二丁目つゞき
中研師佐柄木弥太郎拝領地有り所の名主役兼帯

●三河町より通り町を限り此辺迄を西神田と云

今川橋ハ銀町々神田へ掛る此堀を限り地ハ神田なり

○廣小路　日本橋大通り板橋街道なり

今川橋北河岸緋屋町と火除明地とある是享保四年と云
○或云享保二酉年十二月十二日神田より日本橋迄焼ると云
元乗物町元地ハ廣小路ニ成今の地ハ代地なり

○塗師町元地　北側片町也南側廣小路代地八丁堀ニあり

○新封疆　緋屋町原の通り明和二申堀浚あり其揚土を以土手を築る翌三年より四年に至り出来

○銀町堀神田の方東西川岸町々ハ別而小名多きゆへ河岸通りとあれ
西ノ方龍閑橋際　龍閑町　本銀町四軒屋敷　新かぢや町　本銀町
元乗物町　今川橋際元乗物町　兵庫屋敷佐柄木町
會所屋敷　緋屋町二丁目横町　大傳馬塩町　緋屋町三丁目
上納地　九軒町　道有屋敷　小傳馬町代地　柳原岩井町
一丁目　埋立上納地　元岩井町
是東の堀留り町此東つゞきハ橋元町之
同所北原の前通り町々ハ　永富町一丁目　川井新石町　緋

屋町　同二丁目同三丁目　大和町　岩本町　元岩井町

同　此東橋本町なり

○主水の井　新かるや町河岸此処を俗に主水川岸と云

御用御菓子司大久保主水地所内にある名水之

先祖大久保藤五郎忠行三河にて三百石領せ御小姓　一向乱の時勇を励し軍中に

て火炮に中て行歩不叶上和田に居し常に菓子餅を製せる事を好

度々献之天正中江戸御打入に付御城近辺に可参由に付鎌倉へ引越

○又家製の餅を駿河餅と唱ふる由後に御菓子屋と成女の製之飯田

町に屋敷給はり代々御用達

○常憲院様御代より男の製と成ると云　主水の名ハ天正御入国の時

玉川清泉を江府に通し上水の義申上其功に依て主水の名給はりされ

ハ水の縁により此家にては主水と澄て唱ふるよし

○神田鍛冶町　二丁あり　大通り広小路つゝき

鍛冶棟梁高井氏拝領地あり

○藍染川　かち町より紺屋町へ落る溝なり一町目石橋く

亦逢初川とも云一丁程上まて南北の水落合西へ左云とも又紺屋町

のうしろへ其縁によりての名なりとも云

○恵比須の井　かち町二丁北東角

○末広稲荷　かち町東新道

○類焼薬師　同一丁目東新道　真言草庵　養善院

○千葉助常胤侍女守仏其女の身代に立よし

○幸不動　同二丁目新道（俗に不動新道と云）　悠倹　宝王院

本尊慈覚作

○神田鍋町　東西北と三横町あり　鍛冶町つゞき大通り
傳へ云神田鍋町ハ鋳物師椎名山城ニ被下尾張町の鍋町ハ長谷川豊
前ニ被下と云云

○神田通新石町　鍋町つゞき大通り

○神田須田町　通新石町つゞき大通り二丁あり
水菓子問屋あり毎日市立
此町北ハ筋違橋廣小路なり
古ヘ連雀町ハ此見附前ニあり

○或ハ須田町内ニ古ヘ葭沼多くありしとぞ其葭の葉ば今ニ傳へ持
し者其地ニ有といへり

むかしは神田の地國初以前一圓野原なりしか海内一統ニ帰し
てより通り町の町計にて其外武士地寺院のミ多く然るニ明暦後外
へうつし柳原土手下より東神田と云辺まで武士屋鋪にて西神田
と云方ハ町屋追々出来より今の豊嶋町辺土手下迄の武士屋
敷本所へ移され其跡皆代地町屋と成

○相合橋　むかし町よこ町松平伊賀守裏門前小溝の橋なり

東神田と云地をならん

絹屋町　三町あり　南側明地　北片側町なり

同二丁目横町を俗に宮町と云

○知足院旧地護持院支え　九軒町にあり　九軒町とハ市橋殿横町之

○日輪寺旧地　今の絹屋町四丁通りの辺なり古柴崎村に有て寛永
中此地へ移すと云又明暦大火後今の浅草へうつさる

○誓願寺橋　今川橋の次東ノ橋を云なり

誓願寺今絹屋町の辺に有其後に柳町土手下にうつると云

寛永九正保慶安の図にハ土手下にあり

○誓願寺旧地　柳原土手下須田町東裏手細川家屋鋪の辺なり

誓願寺蓮池の跡とて今堀家屋鋪内に有と云

當寺ハ元相州小田原より西丸に移し其後此地に移ると云然られハ
神田の内轉地せられし支にあらしやなり程ハさたかならね有きとこ

誓願寺橋の通りなるへし

明暦頃迄此処に有其後元禄中迄ハ松平越後守殿土井周防守殿屋鋪
なりと云し

寛永中誓願寺並に法恩寺あり夫ヨ谷中へ移し元禄中今の地本所へ
移る

明暦頃に至りてハ誓願寺とのそきて外に寺院此辺になし駿河臺に
も其頃ハいまたやなかりしく

○三嶋町　此辺を元誓願寺前と今にいへり

同つきに芝神明神田明神門前代地有之

○冨山町　二丁元乗物町代地なり

○永井町

○岸町

此上四町ハ松田町向側左右横町へかけて入組
享保六丑ノ頃増上寺火除として芝の代地なり　二丁東通り丁メ

○松田町　かぢ町東通り

○於玉ヶ池　本名櫻ヶ池と云由 地名のやうに呼り　紺屋町の裏今此辺此地ハむかしハ大池
なりと云

○玉池稲荷　同所
里談の説有略之

○平永町　○八軒町　○東坂町

○六軒町　○小柳町　○神田黒門前　鍋町横丁右角
此町々上野領之元禄中中堂建らるゝ砌此処に代地出る通り町東午入
組の町々
故に神田明神の祭礼に不出下谷稲荷の氏子也

○松枝町　松下町代地　柳原大門町

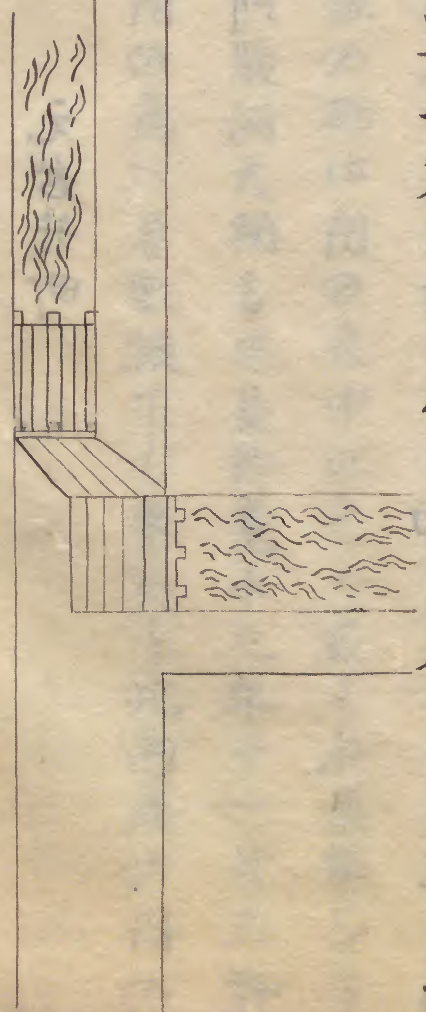
○赤山　柳原土手下市橋家未申の隅今紺屋町代地と云
此四五間に十間計の所昔の仕置場と云明暦万治末迄ハ所々に組屋
敷的場なとありて有罪の者斬罪せし由今に所々地獄谷なと呼所ハ此
類なりと云

△小柳町辺　明暦の頃迄寺々多し其後武士地と成元禄中迄ハ松平越
後守殿土井周防守殿屋鋪ありし今の岩井町紺屋町代地の所ハ松平伊
豆守殿中屋敷の跡なり

○寿松院旧地　土手下雁ヶ淵と云地なりと其地不知当寺郭内より
うつると云其年月もしらしせぬ明暦後なるへきなれ又其後浅草へ移る
然るに寛永の図に土手下に志あせ寺と云あり是れ又土手下に
法志ゆら寺行願寺と云あり今いつれの寺なるゝしれさる

○麻布東福寺旧地
慶長九年川ゟ今の緋屋町辺に移り貞享頃迄凡八十年程爰に住せしよ
つて神田薬師といふ夫より上野下廣小路にうつる其後今の麻布廣
跡の地へ移るゝ
△先に云へる如く神田の地は明暦後寺院外へ移し土手下小柳町辺
豊嶋町久右衛門町橋本町へかけて皆武士地となりしを又享保中本
所へ移されて多く町屋となる
○久右衛門町一二丁目代地　佐久間町代地につき
是向柳原廣小路と成頃の代地
○豊嶋町　三町　湯嶋四丁分代地
元禄中聖堂御建立の頃とて

此久右衛門町も豊嶋町も元皆武士地なり
○佐久間町四丁目代地　とし両町辺
○無慶橋　和泉橋通り筋違橋を三ッ合て掛らるゝなり
棟梁無慶小左衛門地割に川筋むつかしきを工夫して掛りしよりて
名となると蜷川親豊の話之とを
又此処の髪結床に無慶の画書て有し故いつとなく名となれりと云云



●土手下代地之分
緋屋町一二三丁目分

松下町一丁目　冨松町　竜閑町　岩本町ニ小傳馬丁目　鎌倉横
町　横山町三丁目　元葉物町冨山町つゞき　岩井町柳原岩井町ともいふ
大和町　元柳原六丁目　元岩井町

○玉井稲荷祠　弁慶橋近所

○村松町　古繪図ニ筋違ノ門向須田町西の方柳原ヘ方方ニ此名有
り今此町名神田ニあるなし

○清水稲荷社　柳原　神主ニ合て森壹岐守

○駿河臺
此地ハ古ヘ田畑なる國初より武士地ともいへり寺院も多し元ハ神
田の臺と云よし又駿河ニ在住の亓中江戸ヘ召下され此処ニ地を下
されしゆゑなるが臺と云云

△江戸志ニ云駿河御城下ニ在住の亓江戸ヘ召て屋鋪下されし事ハ
両度有り　一ニハ元和二年四月十七日
東照宮駿府ニ於て御他界の砌ニ附の亓中江戸ヘ召され屋敷を下
されたるへし　二ニハ駿河大納言忠長卿寛永九年十一月上野
國高崎ヘ御配流の節ニ附の亓ヘ屋敷被下し事有り此両度の内の
事なるへし
駿河臺の事末ニ有り照し合せて見るへし

○太田姫稲荷　駿河臺土手　別當　松龍山　安重院

當社尊像ハ小野篁公承和中隠岐國へ配流の時海中ゟ翁の形を現したまへれハ洛陽東寺太田姫の神之疱瘡を救はんと記して海中に入ぬ則篁其神現を彫刻したまふ処なり山城国一口（イモアラヒ）里に鎮座之其後太田持資長禄二戊寅年当城に安置したまふ斯て御入國之節（或元和中とも）此処にうつし今の昌平橋を往古ハ一口橋とよひしも此故なり後若林兼次老毋常に此社を信し孫の疱瘡を祈り霊夢を蒙りて其難をのかれし事世のしる處之慶元子若林家より當社建立也

△浅州西福寺　今小川町通りに成道の所慶長中三州ゟ移る此処寺地たりし寛永十五寅浅草今の地にうつさせられし

△西念寺と云寺院西福寺つゝきにありし

◎浅草龍寶寺　慶長の頃此地に建立と云其後今の新堀端へ移る

同浄念寺　永禄中此地草創寛永十二新寺町へうつる

新堀東漸寺　此地に有と云年代不知

白石紳書ニ云丙申冬雀部六大夫入道物語に叔父駿河ゟ此所に移りりし比今の駿河臺設けられ駿河衆の屋鋪下されし故になるゝ臺と云えと云　云丙申ハ慶長元年之

淡路坂　昌平橋の方より上る坂

甲賀坂　儀町より上る坂なり

駒突坂　小川町ゟ駿河臺右の方へ上る坂

埃（ゴミ）坂　火消屋鋪の方へ登る坂本名光感寺坂なりしと云

唐犬坂

鈴木町　鈴木氏の人多き故号鈴木正二の遺跡也此処に有し

皂角（サイカシ）坂　さいかち坂上水道橋よりのほるが臺へ上る坂

観音坂　ここ坂なりし昔茅浦観音寺やしきあり
くわんかく坂　松下専助屋しきへ上る坂

柳原封疆　筋違橋より浅草橋へつゞく長凡十町餘也 此外ハ神田川なり

寛永中図ニ柳堤とあり然るに元禄四或ハ享保中とも云鈞命によつて新に柳を樹るとありきハむかしの柳ハ枯て名のミなりしを又植へさせられしとなり

土手通り床ミせハ元文三筋違より和泉橋迄巾免あり又二年過て浅草迄巾免あり商ミせハ衣類古着一切其外品ミ見せ出て賑ハしき所なりし

柳森稲荷　同土手　別当　仁王院

此所を稲荷河岸と云 當其原始不詳中古此処の篦薮の中に安しの祠ありしを元禄八造立ありと云なりしむかしより柳森といへハ往古此辺柳多くありしとこそ

○神田川　小石川御門より浅草川へ續く万治二己亥年松平陸奥守殿に命せられ御茶の水堀割の節より出来と云

　神田川にて　此人数舟なれハこそ涼りなり　其角

○筋違廣小路　神田須田町より見附昌平橋本郷通り其外八方に小口有ゆへ倍に此処を八ッ小路と云よし

○昌平橋　始ハ芋洗橋と云筋違橋一丁程上
古名相生橋と云よし聖堂此上に移されしより魯昌平郷の心を以て名付られし処と云一に一口橋（イモアライハシ）

○筋違橋　神田川に架ル神田出口御門外湯嶋明神下え日本橋より

○十三町亥ノ方
寛永九の図ニ神田川筋ニ筋違浅草とも見附なし筋違の処ニ神田口
として橋のゑニ建札を画き札の辻と有り明暦三酉正月開板の図ニ
両所とも見附有り

○和泉橋　神田川ニ架ス　筋違の下橋ヶ北を向柳原と云
此処ニ藤堂家舘舎有る故なり藤堂家屋鋪ニて此橋の名をわいへ橋
と呼りとや

○新シ橋　いつミ橋下

○柳原土手内火除地
寛政五丑年十月類焼の後明地と成下谷御成道へ替地出る此時引移
る町々ハ　平永町　柳原岩井町　松下町三丁目　須田町續き樽屋
要蔵拝借地　以上町々建跡へ町々取立囲籾蔵立享和三年八月

駿河臺追加
白石先生紳書巻六（丙申ハ慶長元なるへし此後干支ハ明暦二なり）丙申冬雀部六太夫物語ニ秩父駿河ヶ此所へ引移
し頃ハ今の駿河臺辺ニ記しけなり（是金地院日記ニもミへたり）駿河元の屋敷被下
し故ニ駿河臺と云之下畧
按るニ今の神田川堀割揚土を以て大堤を築られ内外隔出来てこ
なたを駿河臺と名付られ其後ニ仙臺侯其堀を深くせられし
是ハ万治中なり

大日本帝國圖書之印

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan